

エフピコレポート2016

FP Corporation Report 2016



株式会社 エフピコ

TOPICS

非常発電設備拡充



➤ P.8

「第6回ものづくり日本大賞」
優秀賞受賞



➤ P.13

「攻めのIT経営銘柄」に選定



➤ P.17

中部エコペット工場完成



➤ P.18

八王子配送センター拡張



➤ P.20

環境大臣表彰



➤ P.34

メディア
コミュニケーション



➤ P.46

CONTENTS

■ 企業プロフィール (P.3～P.8)

会社概要	4
組織及びグループ会社	5
組織マネジメント	7

■ 事業紹介 (P.9～P.32)

エフピコのビジョン	11
製品開発	13
製造	17
物流	19
販売	21
リサイクル	25
障がい者雇用	31

■ 環境における取り組み (P.33～P.40)

エフピコ・エコアクション50	35
製品ワーキンググループ	36
生産ワーキンググループ	37
物流ワーキンググループ	38
販売ワーキンググループ	39
オフィスワーキンググループ	40

■ 社会における取り組み (P.41～P.48)

障がいを個性とする活動の取り組み	43
株主とのかかわり	45
消費者とのかかわり	46
地域とのかかわり	47
社員とのかかわり	47
第三者によるコメント	48
財務データ	49
エフピコのあゆみ	52
編集後記	54



食品容器の 製造・販売・リサイクルを通して 人、社会、環境をつなぐエフピコ

食品は生産者や製造者から消費者の方々へ、さまざまな形で包装され運ばれていきます。エフピコはこうした食品の容器を製造する会社です。スーパーマーケットやコンビニエンスストアで販売される食品の多くにはエフピコの容器が使われています。さらには使用済み容器のリサイクル事業を通してエフピコは消費者と地球環境をつなぐ役割も果たしています。豊かな食生活と美しい地球環境の創造に寄与する事業に、エフピコは誇りをもって取り組んでいます。



日本全国のスーパーマーケットでエフピコ製品は食品の販売を支えています。

会社概要

商号 株式会社エフピコ
 設立 1962年(昭和37年) 7月
 代表者 代表取締役会長兼最高経営責任者(CEO)小松 安弘
 代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)佐藤 守正
 資本金 131億5,000万円
 社員数 795名(エフピコグループ:4,332名)
 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売
 本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号
 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
 新宿オークタワー(総合受付36階)
 TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811



本社(広島県福山市)



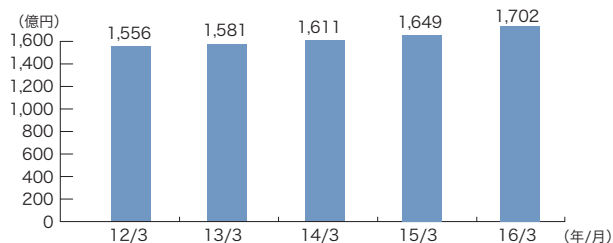
東京本社(新宿区)



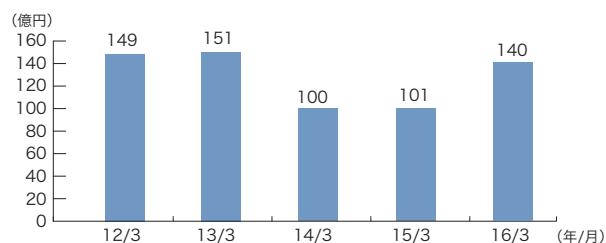
ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

主要な経営指標

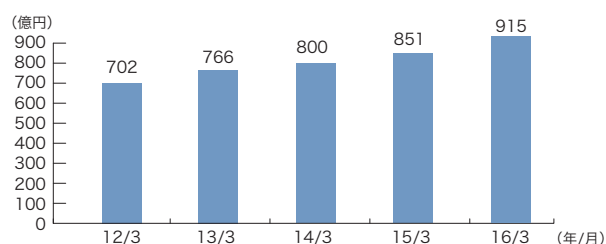
■ 売上高(連結)



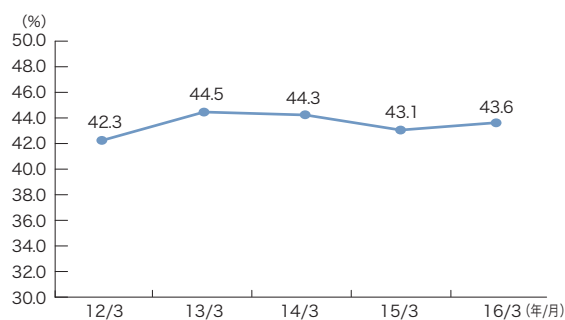
■ 経常利益(連結)



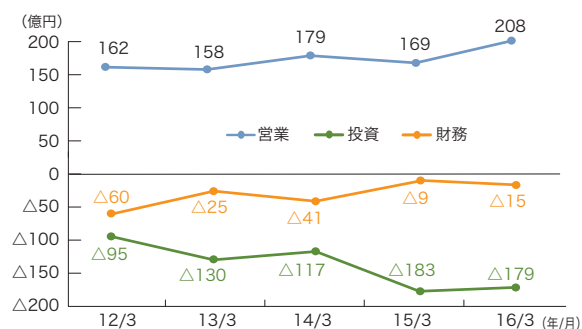
■ 純資産額(連結)



■ 自己資本比率(連結)



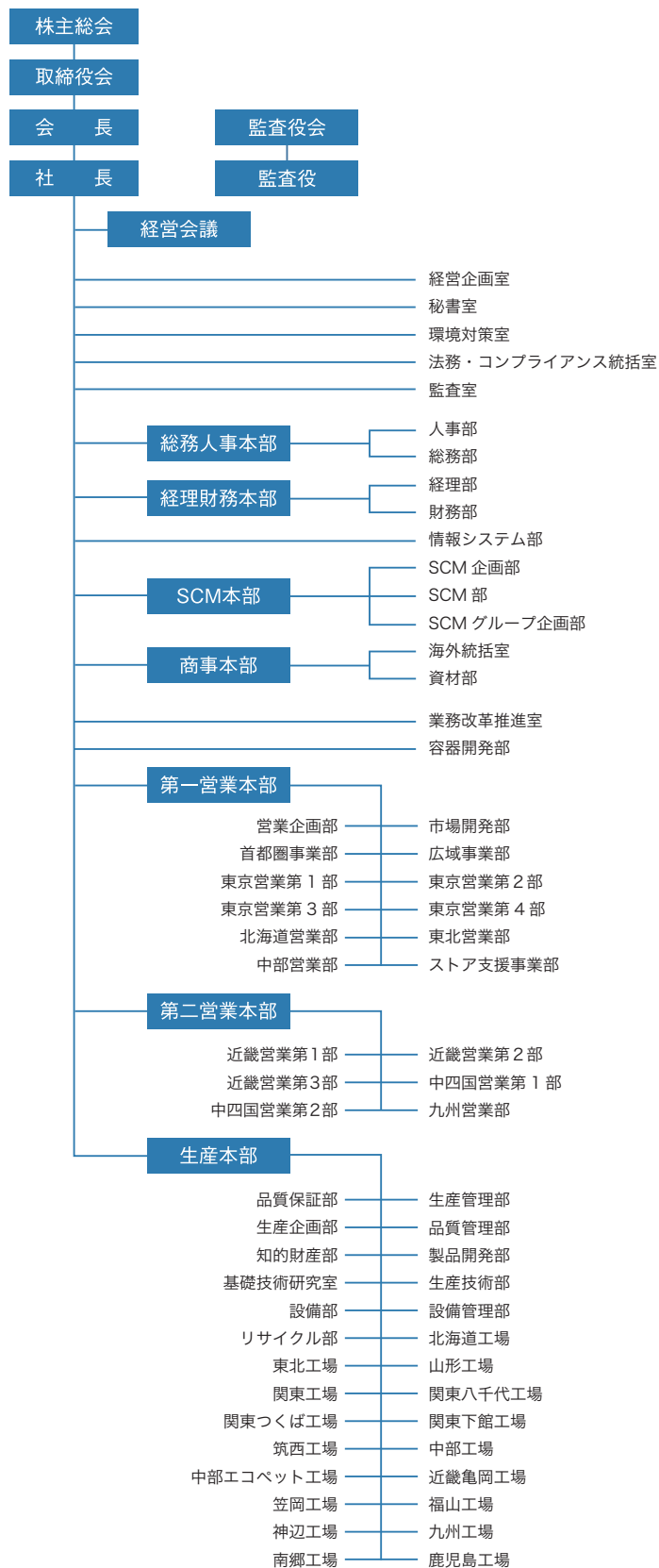
■ キャッシュフロー(連結)



組織及びグループ会社

エフピコの組織

※2016年4月1日現在



本社



東京本社



中部エコベット工場

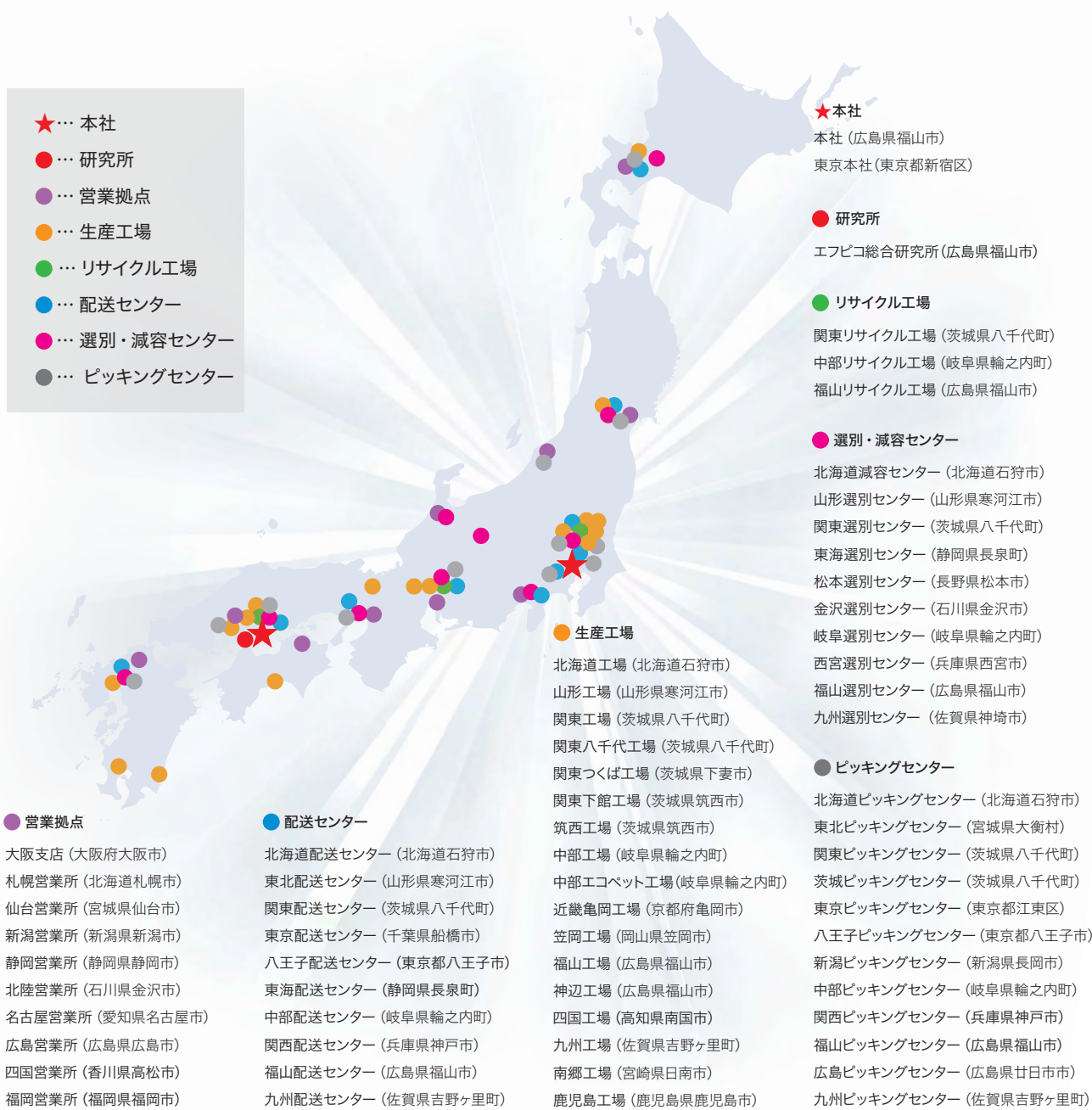


八王子配送センター



福山リサイクル工場

エフピコグループの生産、物流、販売、リサイクルのネットワーク



エフピコグループ会社

製造

株式会社エフピコ北海道
 株式会社エフピコ山形
 株式会社エフピコ寒河江
 株式会社エフピコ茨城
 株式会社エフピコ下館
 株式会社エフピコ筑西
 株式会社エフピコ中部
 株式会社エフピコ笠岡
 株式会社エフピコ箕島

株式会社エフピコ福山
 株式会社エフピコ神辺
 株式会社エフピコ佐賀
 株式会社エフピコ南郷
 株式会社エフピコ鹿児島
 株式会社ダックス
 株式会社ダックス四国
 株式会社ダックス佐賀
 エフピコ愛バック株式会社
 株式会社茨城ビジョンリサイクル

エフピコ日本パール株式会社
 エフピコアルライト株式会社
 西日本ペットボトル
 リサイクル株式会社

物流

エフピコ物流株式会社
 株式会社アイロジック
 エフピコイーストロジ株式会社
 エフピコウエストロジ株式会社

販売・その他

エフピコ商事株式会社
 エフピコチューバ株式会社
 エフピコインターバック株式会社
 エフピコダイヤフーズ株式会社
 エフピコシダ株式会社
 エフピコみやこひも株式会社

組織マネジメント

コーポレートガバナンス

エフピコのコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方は、意思決定の透明性・公正性を確保し、保有する経営資源（人・物・金・情報）を有効に活用するとともに、迅速かつ果敢な意思決定により持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることです。そのための基本方針は以下の5つです。

- ① 株主の権利・平等性の確保
- ② 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
- ③ 適切な情報開示と透明性の確保
- ④ 取締役会等の責務
- ⑤ 株主との対話

エフピコはコーポレートガバナンスの更なる充実を図ることを目的として、2016年6月の株主総会を機に監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へと移行する予定です。詳しい情報は追って弊社ホームページに掲載いたします。

コンプライアンス

法務・コンプライアンス統括室が中心になって健全な企業風土醸成のためにさまざまな研修を実施し、コンプライアンスの指導徹底に取り組んでいます。「エフピコグループ行動憲章」と「エフピココンプライアンス行動規範」はコンプライアンス遵守における指針となっています。

▶ その他のコンプライアンス関連施策

● 内部通報制度

当社グループの社員向けにコンプライアンス全般に係る相談窓口を設置しています。

● コンプライアンス研修

新入社員、管理職候補者を対象とした研修のほか、全役職員を対象としたコンプライアンスセミナーを実施しています。

● 「行動羅針盤」

社員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め責任ある行動を心がけることができるように、社員がいつでも確認できるところに掲示しています。

人材育成

エフピコでは新入社員研修や管理職候補を対象とした研修、また生産現場における技術者育成のための研修などを行ってきましたが、2015年度より次世代を担う若い社員を対象とした研修をスタートしました。7月に実施したワークショップ形式の研修では①視野を広げる、②チームワークの再認識、③社内ネットワークの構築、という3つのテーマを設定しました。企業経営を取り巻く環境が急速に変化する今の時代に対応すべく、「答えを創り出す力」を高めることを目的としています。人材育成は組織マネジメントの大きな柱として今後も力を入れて取り組んでいく分野となっています。



リスク管理

人が原因で起きる可能性のある機器の不具合や故障、生産性の低下、労働事故などのリスクと、自然災害によるリスクを想定し、エフピコでは以下のようにさまざまな対策を講じています。普段からの準備と心掛けが、いつ起きるか分からない問題や被害を最小限にとどめることになるからです。

● 災害への対応

エフピコグループの各施設では、定期的に避難訓練や消火訓練を実施しています。繰り返しの訓練により、万が一の事態に備えています。

● 緊急時対策備品

全社員にヘルメットなどの避難グッズを支給しているほか、オフィスや工場には救急用品などを必要な時、すぐに手に届く場所に配置しています。

● 防潮壁の設置

福山湾に面する福山市箕沖町のエフピコグループ敷地では、高波や津波への対策として高さ約2mの防潮壁で3方を囲っています。

● セキュリティゲート

生産・リサイクル工場や物流拠点などが同じ敷地内にある交通量の多い複合施設では、車両と人の入退場管理を行っています。車両のナンバーは入場時に自動で識別されます。

● 安全衛生委員会

エフピコでは複数のグループ会社が同じ敷地・施設内で働くため、異なる会社や部門の安全管理者が一堂に会しての安全衛生委員会を定期的実施しています。

● 情報のリスク管理

情報の二重化、事業継続の確保、セキュリティの強化という分野において、重要データの保管、データの定期的なバックアップ、天災対策としての外部データセンター利用、回線の二重化、社外メールの誤送信回避システムなどを導入しています。

TOPICS 非常発電設備拡充

長時間の地域停電によるリスク回避のための非常発電設備の改修工事を2015年11月本社社屋に実施しました。非常発電機は従来より設置していましたが、既存設備での通電施設は給水ポンプや廊下・階段の照明などに限られていました。今回の改修工事により2階執務室の照明・コンセント類、パソコン、TV会議システム等も使用可能となりました。今後、地域

停電や災害等で電力会社からの電気供給が途絶えた場合でも、執務室での業務は連続24時間可能となります。

さらに2016年9月からは、物流部門の全国21カ所で非常発電設備を設置するとともに、72時間の電力供給を確保できるよう燃料も備蓄する予定です。





エフピコの容器は食品を 包み、運び、保ち、温め、調理する など多様な機能を持つ 高付加価値製品です

食品容器そのものは小さくて軽いものですが、その種類と機能はさまざまです。現在の日本は少子高齢社会を迎え人々のライフスタイルや食生活も多様化しています。そのため多種多様な食生活に求められる機能を持つ食品容器をエフピコは製造しています。人々から求められるものを、求められるタイミングで確実に提供する。決して簡単なことではありませんが、それを最低限の約束として事業を展開しています。



何度でもリサイクルして使用できる環境保全という付加価値をもつ「エコトレー」。

エフピコ製品ラインナップ

多種多様なライフスタイルと食生活、そしてお客様であるスーパーマーケットなど小売店舗のニーズに対応する1万種類に近い製品を製造しています。

発泡製品

ポリスチレンを材料とした製品類。精肉などは発泡トレーの上に乗せ、ラップをして販売するスタイルが一般的です。寿司箱や弁当箱などの製品としても馴染みです。



精肉

精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつで、スーパーマーケットなどの売り場には不可欠な販売ツールとなっています。



寿司

一人前から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。容器を傾けても中身がずれにくく、寿司の型崩れを防ぐ工夫も施しています。



弁当

さまざまな素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。

透明容器

現在ではほとんど全ての食品の包装容器として使用されています。透明で中身が見えるため、消費者の方々に安全・安心を提供できます。



鮮魚

鮮魚にも広くトレーが使用されています。付加価値を付けた刺身などには蓋付きの透明容器も用いられ、商品の劣化を防ぐ役目も果たしています。



青果物

主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。



菓子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。

高機能製品

耐熱、耐寒、耐油、耐酸、高い透明度、多機能利用など、高い機能性に特化した製品も製造しています。



レンジパック

肉、魚、野菜などの生鮮食品を組み合わせ、そのまま電子レンジで調理できる時代のニーズに合った製品です。素材のおいしさをそのまま提供できます。



電子レンジ対応

コンビニなどでも馴染みの深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。レンジアップ後、持っても熱くない断熱性のある素材も使用しています。



スクリューキャップ容器

食品に限らず、さまざまな小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。

その他

たまごパックや袋形状のものなど、食品流通において必要とされる容器やパッケージの多くを製造・販売しています。



紙容器

紙を使用した蓋付きの弁当容器やテイクアウトフード用の容器です。和の雰囲気を出する時など、食シーンに応じてお使いいただけます。



鶏卵

透明たまごパックの生産も行っています。再生PETを利用したリサイクル製品です。



フィルム製品

野菜、くだもの、生花などの包装用フィルムです。商品の鮮度を確認でき、商品の形状にかかわらず包装できる利便性が重宝されています。

エフピコのビジョン



エフピコにしかできない容器製造、
販売方法、そしてリサイクル。
社会的価値を継続して提供しつづける
ことがエフピコのビジョンです。

代表取締役社長兼
最高執行責任者 (COO)

佐藤 守正

エフピコの約束

① 1万種類に近い製品を確実にお客様にお届けします

エフピコは全国に17の生産拠点と22の物流拠点を擁し、お客様が必要な製品を必要とするタイミングでお届けする体制を整えています。しかもその製品は約1万種類にのぼり、日々お届けしている製品も膨大な量となっています。これを可能としているのは複雑で膨大なデータから最適な生産と物流のスケジュールを割り出すエフピコのサプライ・チェーン・マネジメントシステムです。営業スタッフの販売予測、毎年同時期の販売実績、各製品の保有数、物流に関わるデリバリータイムなどを計算し、お客様への製品の納品から逆算した最善の計画を立案しています。

また突発的に発生する不確定な要素への対策や、現在の社会構造を見据えた施策も講じています。本社と物流拠点に非常用発電装置を配備、グループ全体で約2,000台にも上るパソコンとファイルサーバの運用をクラウド化してデータバックアップやセキュリティを確保するなど実施しています。これからの時代の大きな社会的課題として取り上げられている人手不足対策としては、物流拠点における音声ピッキングや自動ソータシステムの導入があります。音声ピッキングは従来と比較して約1.6倍もの作業効率アップとなり、大きな効果が見込まれています。

② 事業展開と平行して企業市民として当たり前の義務を果たします

食品容器の製造・販売者としてエフピコは地球環境の保全に関して高い意識を持っています。1990年に使用済み容器のリサイクルをスタートして以来、毎年のようにリサイクル活動の規模と質を進化させてきました。現在では全国に13のリサイクル関連施設を持ち、年間約10万トン超のCO₂削減を実践しています。また、多種多様な個性と能力を持つ人材を活かすダイバーシティ経営にも注力し、障がいのある従業員を多数雇用しています。これらの従業員は生産とリサイクルの現場で貴重な戦力として活躍しており、エフピコグループ全体での障がい者雇用率は約15%となっています。

ビジョンを実現する6つの事業と2つの循環

製品開発、製造、物流、販売、リサイクル、障がい者雇用の6つの事業

エフピコは食品容器の製造・販売を主な事業としている企業ですが、その他にも自社物流の全国ネットワーク、使用済み容器を何度も繰り返し製品へと戻すリサイクル、そして生産とリサイクルで力を発揮する障がいのある従業員の積極的な雇用も事業の大きな柱です。これら6つの分野がエフピコの根幹事業であり、それぞれが深く絡み合いながら相乗効果を生む事業構造となっています。

アイデアの循環と資源リサイクルという製品の循環

6つの事業は2つの循環の輪で繋がっています。ひとつ目の循環は、付加価値の高い製品を生み出す知的財産とそれが具現化された製品の流れ。製品開発、製造、物流、販売、という製品のライフサイクルを通してより良い製品を生み出す新しいアイデアが常に具現化されていく循環です。お客様の声を拾い上げ続けて生産現場へとフィードバックすることにより、この循環は改善のスパイラルを続けます。ふたつ目の循環は、製品のリサイクルによる資源の循環です。製造、物流、販売という流れの後にくる使用済み容器のリサイクルにより、再び製造へと戻る資源循環の輪が完成します。



製品開発

エフピコが製造する食品容器

エフピコが製造する食品容器は皆さまの食生活をさまざまな面からサポートしています。食品の生産、加工、流通、販売という過程において、生産地から食卓まで食品をお届けするうえで食品容器は必要不可欠な存在になっています。それは、食品容器を使用することによるさまざまなメリットがあるからです。スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどにおいて安全・安心な食品を消費者の皆さまに提供することを、エフピコの食品容器は陰ながらサポートしています。

□ …… 食品容器の“働き” □ …… 食品容器の“機能”



TOPICS 「第6回ものづくり日本大賞」優秀賞受賞

エフピコは経済産業省主催の「第6回ものづくり日本大賞」製品・技術開発部門において優秀賞を受賞しました。対象となったのは『2軸延伸PETシートと成型技術開発による透明食品容器の実用化』です。右ページのOPET製品の説明にもある通り、PETシートを縦と横に延伸することにより強度と耐熱性をアップした製品は、世界で初めてエフピコが成し遂げたものです。2軸延伸PETシートで製造される食品容器は、電子レンジにそのまま対応できる透明性の高い製品であり、こうした機能を持つ食品容器はスーパーやコンビニなど販売の現場で待ち望まれていました。その汎用性の高さから今後はさまざまなシーンの使用が期待されます。食品容器製造者であるエフピコとして非常に励みになる受賞となりました。



機能の優位性でニーズに応えるエフピコのオリジナル製品

● エコトレー・エコAPET

環境対応

エコトレーとエコAPET(透明容器)はどちらもエフピコが開発した環境対応製品です。回収した使用済み容器からペレットもしくはフレークを製造し、それらを原料としてもう一度新しい製品を製造します。



● OPET

世界初の素材

OPETシリーズは、PETを縦・横に延伸して(2軸延伸)分子を配向させることで、強度と耐熱性をアップ。耐油性に加え、透明性を維持したうえで従来のPET素材の60℃耐熱から80℃までの耐熱を実現した、世界初の素材です。



● 新透明PP

高い透明性

耐熱性・耐油性に優れているので、電子レンジで加熱しても食品容器に変形も穴あきも生じません。また、PP素材はMC油脂等により脆化せず、食品容器は破損しません。



● マルチFP

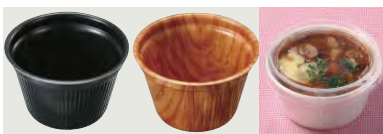
高低の温度対応

電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)と、耐寒性(-40℃)を併せ持つ優れた発泡素材です。断熱性にも優れ、電子レンジで加熱しても食品トレー・容器の裏側は70℃以下。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。



マルチFP新製品「ドリスカップ」

今までのエフピコ製品にはない発泡素材の深型カップ形状の容器です。中皿を仕切りとして蓋を付け、おかず(上)とご飯(下)とのセット販売などに適した製品です。



● マルチSD

高いデザイン性

電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)に優れている製品です。マルチFPの改良により生まれた非発泡タイプで、成形性にも優れ、非発泡ならではのシャープな形状が特徴です。



● 新機能・新デザインの高付加価値製品

肉、魚、野菜などの生鮮食品をアソートしてパックし、そのまま電子レンジで調理できる嵌合型製品のレンジパック「蒸せるんです」のほか、漏れ難い、内容物がずれ難い、ツマの削減を可能にする、ボリューム感を訴求する、高級感のある折箱タイプ容器などのさらなる開発と販売拡大を行っています。エフピコはこれら自社で開発した製品において特許、意匠、商標の登録しており、知的財産を守っています。



製品開発の拠点

高い機能性を持つエフピコ製品の研究開発は、製品開発部と基礎技術研究室が事務所を構える総合研究所で行われています。製品の研究開発のための各種テスト室、試験室、サンプル作業室などを含む最新の設備を備えたこの施設は、エフピコが食品容器業界をけん引していくための中心的な存在です。

製品開発部はこの施設で容器の開発や改善を行っています。デザイン担当が容器の素材、形状、柄などの仕様を考案。それを設計担当が設計データを作成して具現化し、マシンが試作品を作成します。お客様のニーズに応える高品質な製品はこのようにして生まれています。

基礎技術研究室では食品容器に新しい可能性をもたらすための新素材の研究や容器の透明度、硬度、耐熱性、耐寒性、耐酸性、耐油性など製品としてのスペックを高めるための研究が行われています。さらに、既成の枠を超えた今までとはまったく異なる性質の製品の研究と開発や容器を加工するための技術の研究もこの研究室で行われています。

またこの総合研究所は2015年9月に『日経ニューオフィス賞・中国ニューオフィス推進賞・中国経済産業局長賞』を受賞しました。これは「快適かつ機能的」なオフィスとして認められたことであり、エフピコのさまざまな創造活動のさらなる発展を後押しするものです。



進化し続ける“需要創造型”製品開発のDNA

エフピコの製品開発は、創業者である会長の小松による“現場主義”という哲学に根差しています。エフピコの営業スタッフは一日に何度でも繰り返しお客様を訪問し、販売の現場であるスーパーなどの売り場を観察します。売り場で消費者の方々の買い物の様子を観察し、そこで気づいたことなどについてお客様とのコミュニケーションを重ねます。お客様が売り場において必要だと感じていることを製品づくりに生かします。社内で新しい製品の開発に向けた会議を繰り返し行い、営業、製品開発、製造などオールエフピコでアイデアや意見を出し合いながら製品を開発していきます。

エフピコは毎年約2,000もの新製品を生み出していますが、それはすべて“現場主義”という考えから生まれ、進化を続けながら次の世代へと受け継がれています。



FPCO's Philosophy

代表取締役会長兼
最高経営責任者 (CEO)

小松 安弘

**ドリスカップはエフピコに新たな可能性をもたらす画期的な製品。
しかしそれもひとつの新製品にすぎません。**

2016年に販売を開始したドリスカップは電子レンジで使用可能な耐熱性を持つ素材を深型カップ形状に成形した製品ですが、これはわが社にとって画期的な製品です。なぜならばドリスカップと中皿との組み合わせによりメニューが無限に広がるからです。丼(ドリスカップ)と中皿と蓋の組み合わせにより、おかずとご飯のセットのまま電子レンジで温めるということも可能になりました。今までのようにおかずがご飯にかかったままで販売されていたものを温めるよりも、温めてから食べる直前におかずをご飯の上にかけるほうがはるかに美味しいのです。耐熱性や透明性の高い製品の製造を得意とするエフピコの他の製品と組み合わせれば、ドリスカップは大きな付加価値を生み出すこととなります。しかしこれはほんの一例で、ドリスカップの活用方法は私たちが考えるよりもユーザーの方々の発想のほうが自由で創造性に溢れているように思います。ドリスカップは今後自らの力で市場を育てていくような魅力的な製品です。

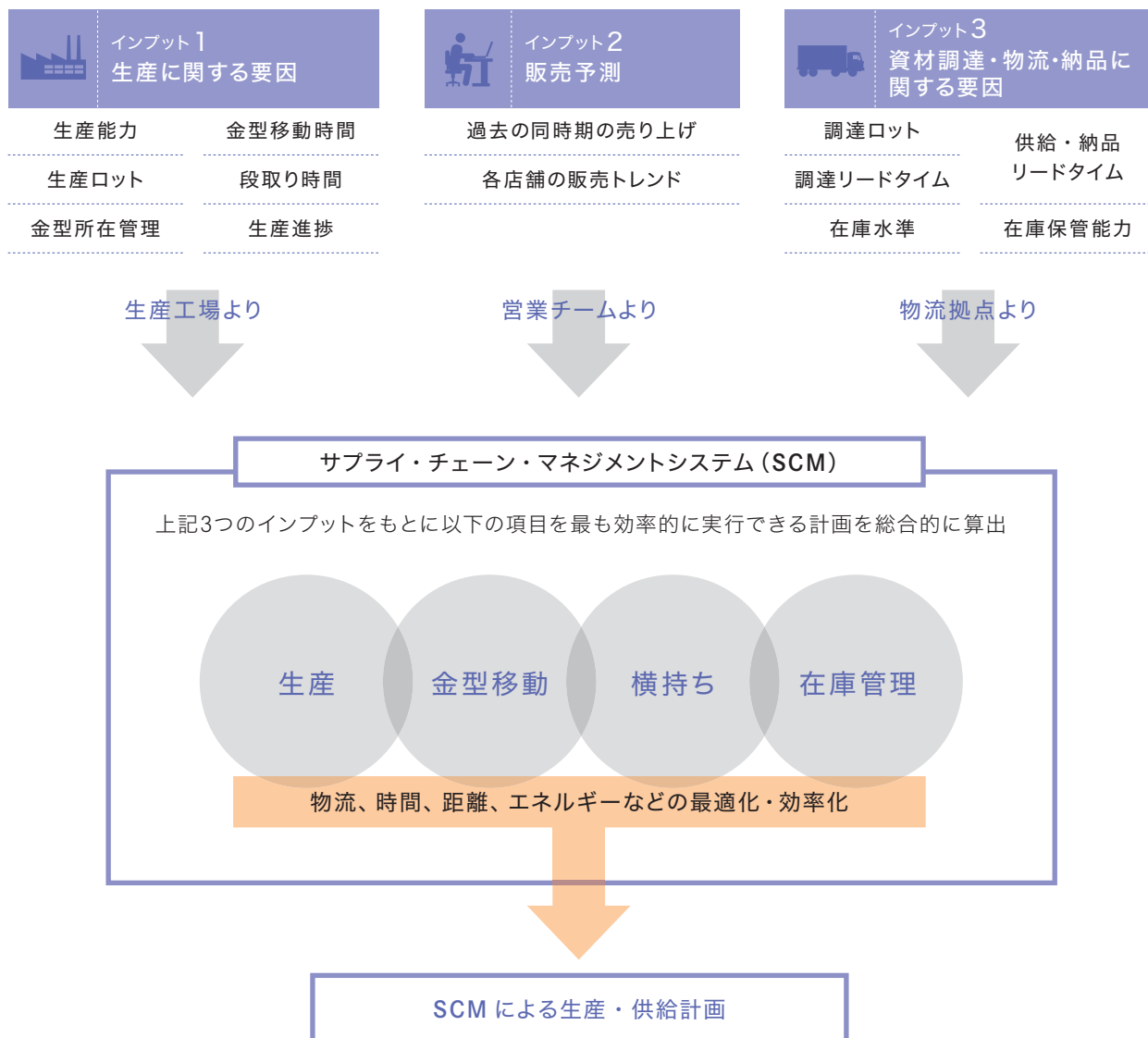
今エフピコではさらに、新たな機能性を持つ製品を市場に送り出す準備に取り掛かりました。PP(ポリプロピレン)素材に二軸延伸をかけて強度を増した製品です。この工程を加えることにより、透明性と強度に優れた熱変化に強い食品容器が生まれます。例えば今は冷凍食品は袋に入った状態で販売されています。ところがエフピコが創るこの新製品が導入されれば、容器に入ったままの冷凍食品をそのまま電子レンジで解凍・温めることが可能となります。冷凍食品を袋から出して容器に移し替えてラップを掛けるという手間がなくなり、調理の時短やゴミ削減にもなりますし、冷凍食品のメニューもバリエーションが大幅に増えるでしょう。エフピコが次々と新しい製品を生み出していることに驚く人もいます。でもそれは決して驚くようなことではなく、社会や食生活の変化に合わせて食品容器の形態や機能を変えているだけなのです。現場主義から生まれるエフピコ製品は人々のニーズに合わせて変化と改善を続けていきます。



製造

サプライ・チェーン・マネジメントによる高度に効率化された生産

エフピコ製品の生産・供給計画の根幹は、サプライ・チェーン・マネジメント（SCM）による中央集中管理システムです。このシステムは、営業チームによる需要予測をスタート地点として、生産と物流などに関する多岐にわたる情報とデータをインプットしてはじき出される、最も効率的な生産計画とそれに伴う物流計画を立案します。



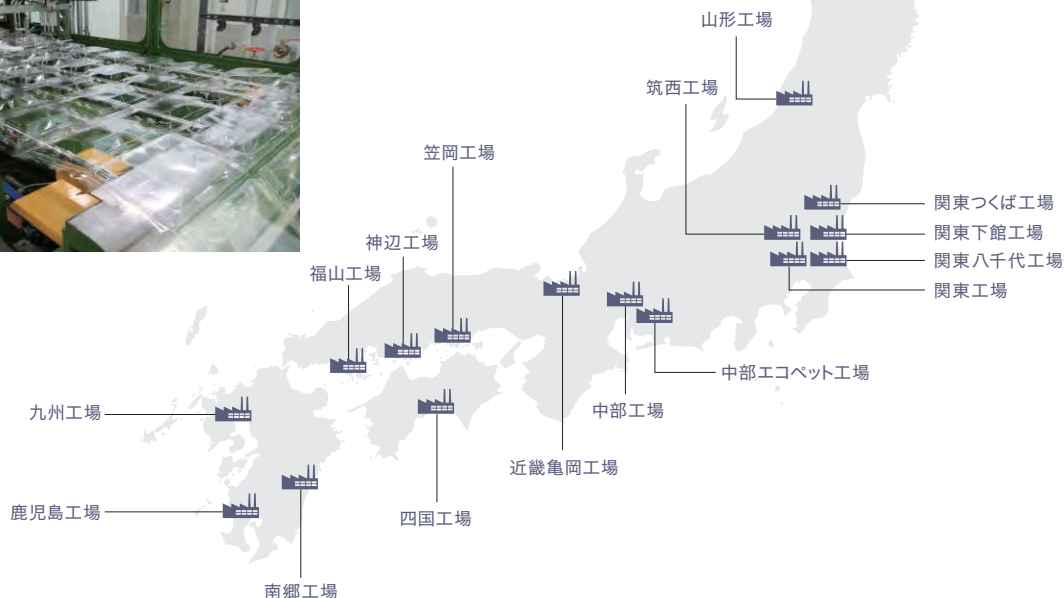
「攻めのIT経営銘柄」に選定

経済産業省と東京証券取引所が共同で創設した「攻めのIT経営銘柄」の平成26年度選定銘柄にエフピコが選ばれました。東京証券取引所に上場する約3,500社を対象に、経営革新や競争力強化のためにITの積極的な投資と活用に取り組んでいる企業18社に選定されたものです。需要予測と生産のマッチングを自動化したSCMシステムや物流の配送システムなどを運営するためのIT活用が評価されました。



全国規模の生産体制

エフピコの生産工場は全国に17カ所あり、各地の消費地近郊において生産供給体制を整備しています。例えば巨大な消費地である首都圏には茨城県を中心に5つの工場を配しており、エフピコ独自の高性能製品や環境対応製品など、1万種類におよぶ製品をお客様のニーズに合わせてタイムリーに供給する体制を整えています。各工場の設備はエネルギーの見える化により稼働状況をモニターし、定期的な診断と必要に応じた設備のリニューアルによってメンテナンスを実施しています。



TOPICS 中部エコペット工場完成－PETボトルの選別、リサイクル、エコ製品まで一貫生産

回収した使用済みPETボトルのリサイクル(素材製造)から食品用の再生PET容器の製造までの全工程を行う中部エコペット工場が2016年3月に完成しました。この工場は既存の中部PETリサイクルセンターや中部配送センターに隣接しており、延べ面積は23,885平方メートルにもおよびます。これまでは搬入された使用済みのPETボトルを透明容器製造のためのフレークへとリサイクルするところまでの工程でしたが、今後は容器製造までも一貫してできるようになりました。隣接のリサイクル工場で作られたフレークは巨大なパイプラインを通過してエコペット工場へと空送されます。それまでのようにフレークをトラックで離れた場所にある製造工場へと輸送する手間も時間も省略され、リサイクル工程から製造工程へとシームレスに移行することができます。さらにリサイクル製品製造後にはすみやかに隣接の配送センターへと移動し、お客様へ届けられます。リサイクルによるCO₂削減に大きく寄与するエコAPETを理想的な効率性で製造する工場です。このリサイクル製品の一貫生産を一般の方々にご覧いただくための見学施設も設けています。



物流

エフピコ物流による配車・納品計画

製品の製造計画と同様に、物流計画もサプライ・チェーン・マネジメントシステム(SCM)によって立案されます。物流計画に従い、グループ会社であるエフピコ物流が一括して配車・納品を行います。倉庫管理、配車計画、ピッキング、納品とすべてを自社物流によって行っているのがエフピコの強みです。納品後の復路便を活用し、リサイクルのための使用済み容器の回収ができるのも自社物流ならではの利点です。

● ルートプランナー

顧客の要望、地理的条件、物量等を日々検討し、最適な配送ルート割り出す配車計画立案ソフトウェアです。

● R・Dチェックシステム

配送状況をオンライン上でリアルタイムに確認するシステム。ルートプランナーによる配送計画とのずれをチェックし、フィードバックすることにより計画配送の精度を高めていきます。

● ソーターとクロスドックセンター

複数の倉庫のフロアから出荷する製品を正確にトラックバースまで運ぶオートメーションシステムです。荷役スタッフと、ドライバーの省力化、効率化を実現させています。

● 音声ピッキング

音声による製品のピッキングサポートシステムを順次導入しています。作業効率が大幅にアップすることで、人手不足対策として効果を発揮しています。



全国を網羅する物流ネットワーク

約1万種類の製品をお客様にお届けするための物流拠点は全国に約22カ所。7つの拠点では配送センターとピッキングセンターが同じ敷地内にあり、業務の効率性を最大限に高めています。また、災害や事故などで電力の供給が止まった場合でも各センターが稼働できるように、全ての物流拠点に72時間稼働可能な自家発電設備の設置を2016年9月までに完了します。

● ピッキングセンター

北海道ピッキングセンター (北海道石狩市)
東北ピッキングセンター (宮城県大衡村)
関東ピッキングセンター (茨城県八千代町)
茨城ピッキングセンター (茨城県八千代町)
東京ピッキングセンター (東京都江東区)
八王子ピッキングセンター (東京都八王子市)
新潟ピッキングセンター (新潟県長岡市)
中部ピッキングセンター (岐阜県輪之内町)
関西ピッキングセンター (兵庫県神戸市)
福山ピッキングセンター (広島県福山市)
広島ピッキングセンター (広島県廿日市市)
九州ピッキングセンター (佐賀県吉野ヶ里町)

● 配送センター

北海道配送センター (北海道石狩市)
東北配送センター (山形県寒河江市)
関東配送センター (茨城県八千代町)
東京配送センター (千葉県船橋市)
八王子配送センター (東京都八王子市)
東海配送センター (静岡県長泉町)
中部配送センター (岐阜県輪之内町)
関西配送センター (兵庫県神戸市)
福山配送センター (広島県福山市)
九州配送センター (佐賀県吉野ヶ里町)



FPCO's Philosophy

エフピコ物流株式会社／株式会社アイ・ロジック
代表取締役社長

小泉 哲

**倉庫業と運送業を自社で展開
するのは、お客様に対する究極の
物流サービスであると考えています。**

ルートプランナー、R・Dチェックシステム、ソーター、音声ピッキングなどエフピコグループの物流の現場ではさまざまな効率化の施策を導入しています。これらは決してアットランダムに選ばれたバラバラな施策ではなく、ひとつの大きなビジョンを実現するためのものです。それは自社物流だからこそ描くことのできるビジョンであり、エフピコという容器メーカーが実践できる究極の顧客満足を目指しています。

営業スタッフはお客様からオーダーを受けて納品の手配をした時点で販売活動が完了したように感じるかもしれませんが、その商品が実際にお客様の手元に届いて初めて“販売した”と言えます。そして、受注後の商品手配から



納品までを行っているのがわれわれ物流部門です。商品手配は倉庫業として、納品は運送業としてです。お客様にとって重要なのは、注文した商品が遅延なく予定時間内に確実に届くこと。さらにわれわれにとって大切なのは、納品した商品をお客様に気持ちよく受け取っていただくこと。受注から納品までを確実にスムーズに行うための施策をシームレスに展開できるのが自社物流の強みなのです。一連の業務のどこかに支障が発生した時、グループ会社であるからこそ、その情報が即座に全体に伝達され速やかに対策が講じられます。エフピコの物流活動は顧客満足を起点として構築され、グループ会社が一丸となって実践しています。

TOPICS 八王子配送センター拡張



2015年9月に八王子配送センターの拡張工事が完了しました。中2階を含む地上4階建ての施設となり、単一センターとしては自社最大規模の床面積2万3,000坪を擁する巨大な物流拠点となります。茨城県の関東配送センターと合わせ、首都

圏の大きな需要に対応可能な施設として繁忙期にも安定して商品を提供する体制となりました。また新たに自家発電設備も設置し、災害や事故などで停電した場合でも最低3日間の電気供給が行われます。

販売

提案型セールス活動

エフピコの営業スタイルは徹底した現場主義。お客様への月100回の訪問を目標とし、売り場、物流、リサイクルなどトータルなソリューションを提供しています。こうしたスタイルから生まれたのが提案型のセールス活動です。食品販売の現場で起きている問題をエフピコの食品容器を用いて解決するための提案を行っています。

● 商品提案会

商品提案会はエフピコが長年実施しているお客様向けのプログラムです。主な対象は全国のスーパーマーケットの食品売り場担当の方々。エフピコが製造するさまざまな食品容器の特徴をご理解いただき、製品が持つメリットを活用して売上アップに繋げていただけるよう製品プレゼンテーションを行っています。

提案会ではスーパーマーケットにおける食品分野の市場調査、売り上げトレンドに関する分析、エフピコ営業スタッフによる所見などを説明します。次に、そうした状況においてどのような商品づくり、売り場づくりを目指すべきかを解説します。そのうえでさまざまな種類のエフピコ製品をプレゼンテーションし、商品づくりと売り場づくりに役立てていただく方法を説明します。

また、その後にキッチンスタジオに会場を移動してご提案の内容を再現した商品や売り場の実物をご覧いただくことも恒例となっています。キッチンスタジオのある東京本社と大阪支店においては、定期的に商品づくり、売り場づくり提案会を開催しています。大規模な提案会には全国から数百人のお客様にお越しいただいています。

2015年7月には東京と大阪以外では初めてとなる『レンジDeli』商品提案会を総合研究所(福山)、仙台、札幌の3会場において開催し、合計600名を超えるお客様にお越しいただきました。レンジDeli「蒸せるんです」への興味の高まりに応えるべく開催した提案会でしたが、「具体的な提案やレンジで美味しくなる食材について学ぶことができ、問題解決の糸口になった」などの評価の声をお客様からちょうだいしました。



営業拠点

ビジネスの中心である東京本社と大阪支店の営業拠点を中心とし、以下の拠点で営業活動を行っています。

本 社：広島県福山市

東京本社（キッチンスタジオ常設）：東京都新宿区

大阪支店（キッチンスタジオ常設）：大阪府大阪市

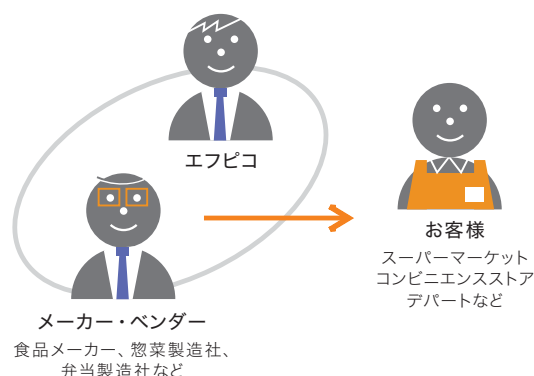
営 業 所：札幌営業所（北海道札幌市）、仙台営業所（宮城県仙台市）、新潟営業所（新潟県新潟市）、
静岡営業所（静岡県静岡市）、北陸営業所（石川県金沢市）、名古屋営業所（愛知県名古屋市）、
広島営業所（広島県広島市）、四国営業所（香川県高松市）、福岡営業所（福岡県福岡市）

コ・クリエーション型営業

売り場づくり提案はスーパーマーケットなど小売業のお客様とのコミュニケーションですが、一方でエフピコは食品メーカーやベンダー(惣菜、お弁当製造業者など)との協働で食品売り場づくりや市場の創造を行う「コ・クリエーション型営業」を推進しています。この方法によりエフピコの製品力にメーカー・ベンダーの商品力(食品類)をマッチングさせて、さらに魅力的な商品を創り上げてお客様に提案することを目的としています。

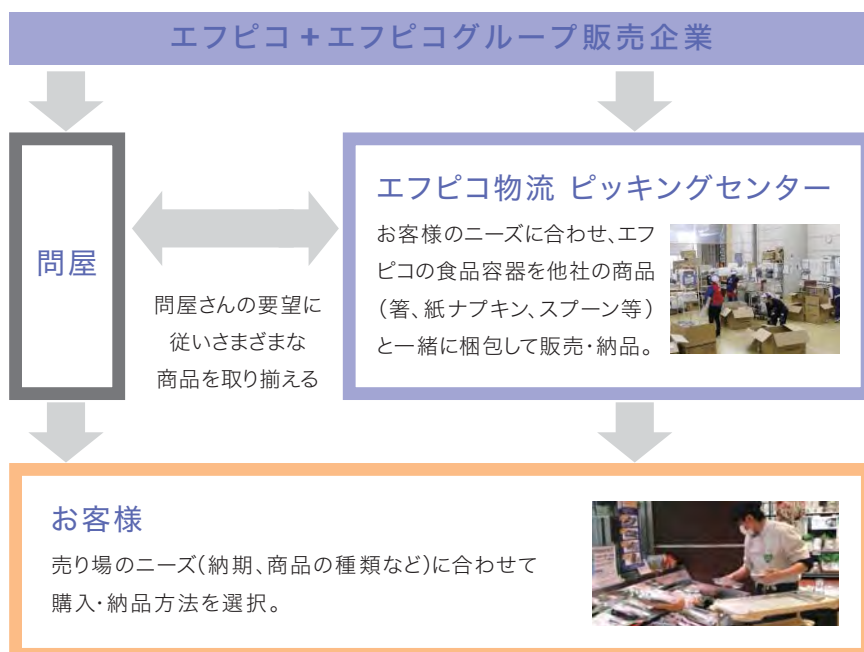
例えばドレッシングなどの食品メーカーが提供する商品にマッチするベンダー提供のカット野菜(食材)を合わせ、食材の新鮮さとドレッシングのシズル感が見える透明性の高いエフピコの容器に入れて販売することを提案します。この提案により、スーパーマーケットではトレンド商品の調査、食材の選択、容器の選択などを行う手間を省くことができます。忙しいスーパーの方々の手間を取らせることなく、ベンダーが納品した魅力的な商品をすぐに売り場で陳列することができるわけです。

さらに、こうした商品の売り場の演出方法などもエフピコから提案を行っています。この営業スタイルは売り上げやオペレーションにおいて、お客様に大きなメリットをもたらしています。



お客様視点の販売システム

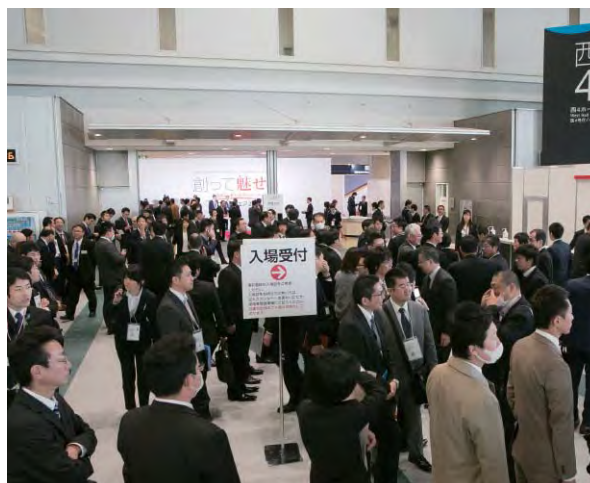
エフピコではお客様の都合に合わせて数通りの販売方法により納品を行っています。ひとつ目は、問屋さんを通し販売・納品する方法。ふたつ目は、問屋さんからの要望によりエフピコのピッキングセンターで揃えた商品を納品する方法。そして3つ目は、エフピコがピッキングセンターなどを通してお客様に直接納品する方法です。お客様には各々のニーズに合った販売・納品方法を選んでいただいています。



エフピコフェア

エフピコの営業スタイルで特徴的なのは積極的な提案型であることですが、年に1回東京ビッグサイトで開催する「エフピコフェア」は、その集大成と位置付けられるイベントです。毎年3月に1ホール全部を使って開催するこのフェアは、お客様に対して提案とアピールを行うエフピコによる一大プレゼンテーションとなっています。

今年度は2016年3月29日～31日の3日間、東京ビッグサイトの西4ホールで開催しました。3日間で約1万4,000人をお迎えした今回のフェアのテーマは「創って魅せる～その先に、新たなマーケット」。レンジデリ「蒸せるんです」を提案の中心に置き、過去の「置いて売る」という単純な販売方法から完全に脱却し、エフピコの容器を使うことで新鮮な食材を手軽に料理して(創って)魅力的な商品として(魅せて)販売するというエフピコならではの提案を会場全体で表現しました。今、レンジ対応商品のマーケットはどんどん拡大しています。少子高齢社会のニーズに対応した「少量」や「短時間で手軽」、でも「出来立てで美味しい」を実現したエフピコ商品を取り揃えたフェアとしました。



スーパーマーケットや問屋の方々を始めとするたくさんのお客様から人気を博しているこのフェアですが、その理由は常に新しい発見と使えるアイデアをご用意していることにありと自負しています。例えばエフピコは、今まで誰も見たことがない食品容器をスーパーの店舗を再現したスタイルで展示します。右真ん中の写真は商品を縦に陳列することを可能とした容器です。単純に「縦に陳列」と聞いてもピンとこない方もいらっしゃるかもしれませんが、実際に食品を入れて見せ方を工夫して陳列すると、それを見た方々からは新しいアイデアが湧いてくるものです。このように新しい製品、新しい陳列方法や見せ方、今までにない販売方法を提案し続けているエフピコフェアであるからこそ、毎年多くのお客様に来ていただけるものであると思っています。



フェア会場内において、お客様は自由に写真を撮ることができます。エフピコが提案する新製品、新しい売り方、魅力的な売り場づくりのアイデアを持ち帰っていただき、ご自身のスーパーマーケットなどで実践していただくことがエフピコの提案型営業の理想的なスタイルと言えます。エフピコフェアはそのための最も有効な機会として、継続して開催しています。





●「コ・クリエーション型営業」のアピール

エフピコがここ数年取り入れている「コ・クリエーション型営業」をフェアでも表現・説明し、この形態による提案型営業の利点を体験していただいています。この営業形態によるチームを「チームX」と名付けているのは、エフピコX食品メーカーなどエフピコと他社とを掛け合わせることで生まれる相乗効果を表現しているからです。他社とコラボレーションすることで生まれる効果を狙った協同の商品開発や売り方提案をフェアにおいても売りのひとつとしています。



●レンジデリのアピールと試食

エフピコの容器と電子レンジを使い、新鮮な食材から出来立ての美味しい料理を創ることの価値は、出来上がったものを実際に食べることで理解していただけます。今年度のフェアでもお客様に試食をしていただくための場所を多数設け、出来立ての料理を提供しました。今回新しく提案した販売方法に「生から惣菜」があります。お店で購入して家に持ち帰ってから電子レンジで温めるのではなく、調理前の食材を電子レンジで調理して出来立てを食べることのできる商品のことです。この「生から惣菜」も試食をしていただき、その魅力をアピールしました。他にもたくさんのレンジデリ関連製品を展示し、試食をしていただきながらその利便性と美味しさをアピールしました。



リサイクル

循環型社会づくりに向けたエフピコの歩み

エフピコは1990年に「エフピコ方式のリサイクル」活動をスタートしました。エフピコによる使用済みトレーの回収以前、市民と行政によるリサイクル活動は牛乳パックが主な対象製品でした。高度成長期の“使い捨て”時代においてゴミの廃棄が日本各地で問題になりましたが、エフピコはそうした問題に対して即座に対応し、自社が製造した食品トレーのリサイクルをスタートしたのです。このエフピコ方式のリサイクルは自治体などによるゴミ回収とはまったく異なる、エフピコという一私企業によるリサイクル活動です。エフピコが生産したトレーや透明容器をスーパーマーケットの店頭な

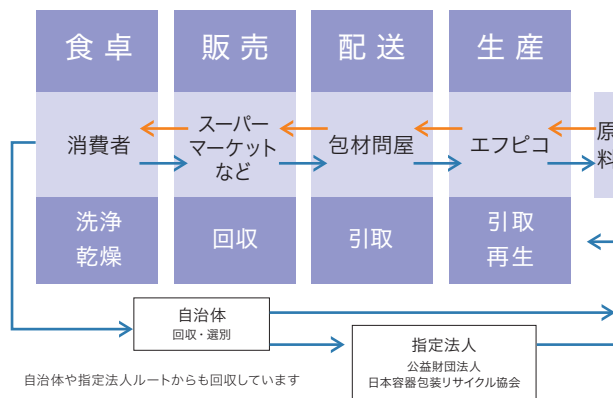
ど約9,200拠点で回収し、全国10カ所の減容・選別センターで素材別に選別した後、3カ所のリサイクル工場へと搬入され再びトレーや容器へと生まれ変わります。2012年には使用済みPETボトルをリサイクルして透明容器を製造する事業もスタートし、回収量も年々増加しています。政府や自治体などが環境保全に向けたさまざまな制度やルールを設けますが、エフピコはそれらに先んじて行動を起こしています。一私企業のリサイクル活動ではありますが、国や自治体と協働しながら、エフピコは循環型社会実現に向けて歩み続けています。



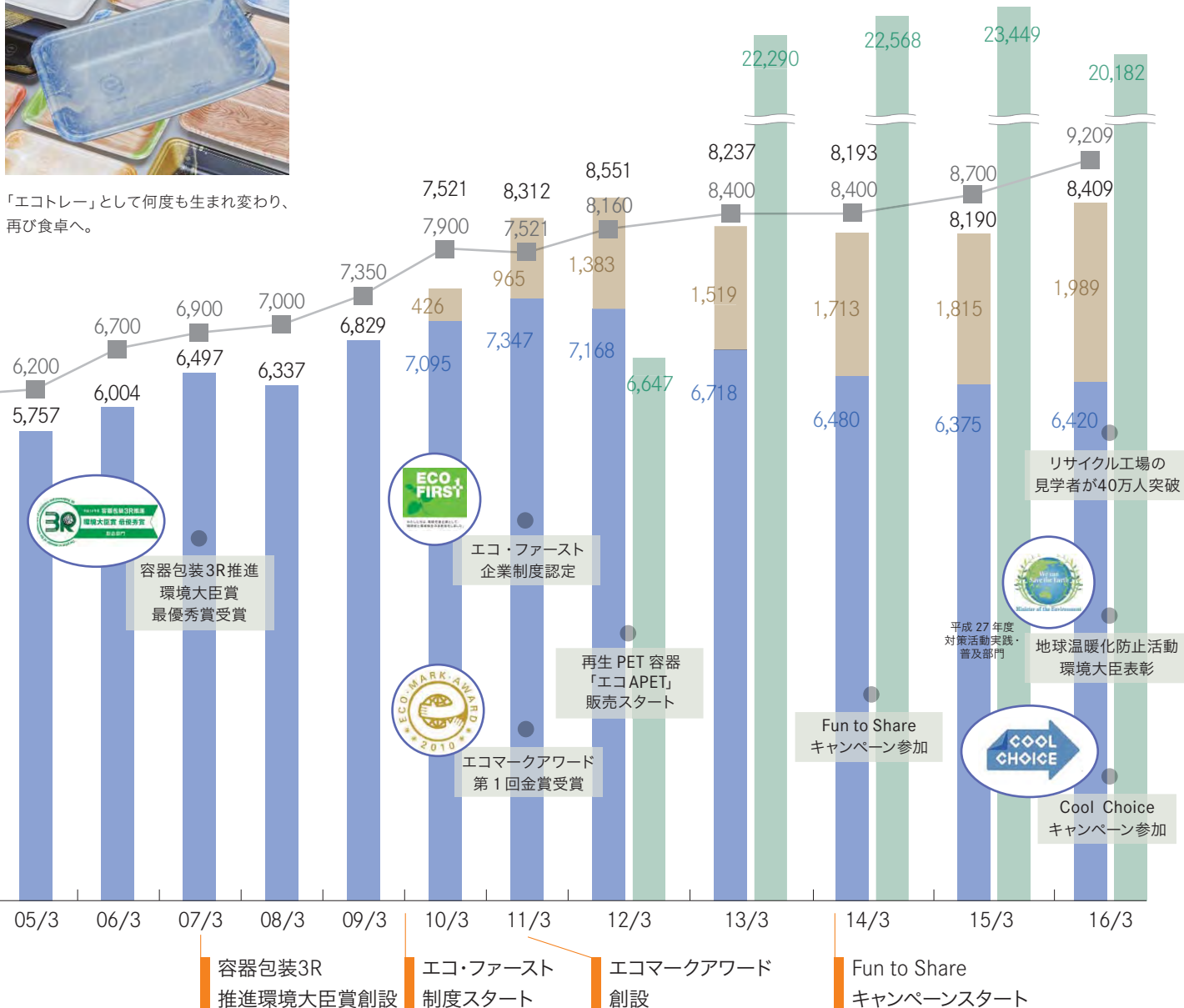
エフピコ方式リサイクル

エフピコでは、一度使用されたトレーや容器を回収しエコトレー(再生トレー)・エコAPET(再生透明容器)を生産しています。使用済み製品をエフピコのリサイクル工場へと戻すこのシステムは、消費者、スーパーマーケットなどの流通業者、包材問屋、エフピコの4者が一体となった協力体制で成り立っています。使用済みトレーや容器を廃棄せず、回収し再生原料として使用することによる、資源循環とCO₂削減のダブル効果があります。また2011年以降はPETボトルをリサイクルしてエコAPETにする活動も行っており、天然資源を枯渇させないための、地上資源の活用を推進しています。

4者一体によるエフピコ方式のリサイクル



「エコトレー」として何度も生まれ変わり、再び食卓へ。



リサイクル工程



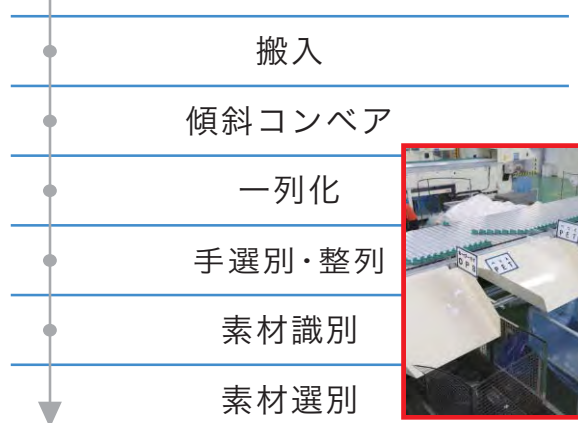
発泡トレー

発泡トレーのリサイクル行程



透明容器

透明容器のリサイクル行程



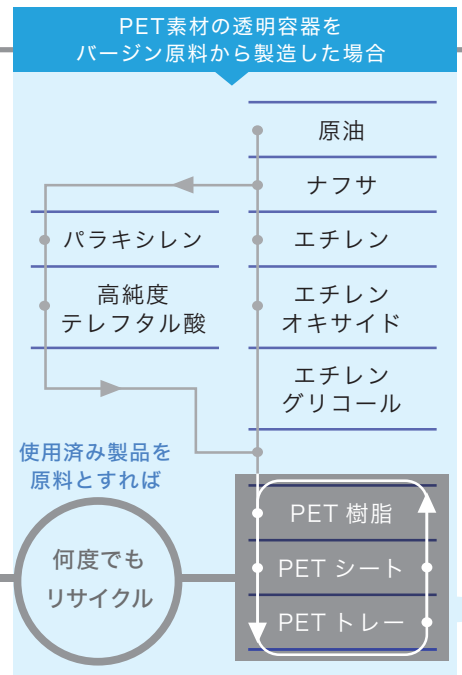
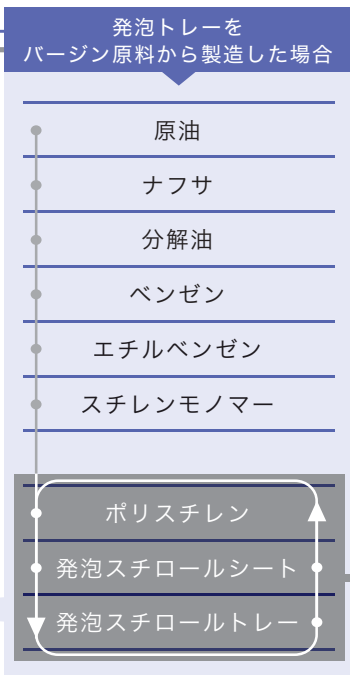
OPS

その他

PET



エコトレーには
エコマークが付いています



使用済み製品を原料とすれば

何度でもリサイクル

赤枠の工程が動きます

専用のアプリを使い、工程の写真にスマートフォンやタブレット端末をかざすと、画面上で動画を見ることができます。

① 専用のアプリをダウンロード

② アプリを起動

③ 工程の画像(赤枠)をスキャン

④ 動画が流れます

アプリのダウンロード方法

Androidの場合

- ① トップ画面から「Google Play」を起動。
- ② 検索バーに「COCOAR」と入力して検索。
- ③ 検索結果画面にあるバックダンマークのアイコン付近にある「インストール」を押すとアプリのインストールが始まる。

QRコードを読み込むと直接検索結果を表示します



このアイコンがCOCOARアプリです



iPhone/iPadの場合

- ① ホーム画面から「App Store」を起動。
- ② 「検索」を押す。
- ③ 検索バーに「COCOAR」と入力して検索。
- ④ 検索結果画面にあるパンダマークのアイコン付近にある「インストール」を押す。

QRコードを読み込むと直接検索結果を表示します



このアイコンがCOCOARアプリです



PET ボトル

PET ボトルのリサイクル行程

搬入

自動篩い

ラベル剥離

素材選別

手選別

破碎

予備洗浄

アルカリ洗浄

比重分離・すすぎ洗浄

脱水

昇温

真空リアクター

カラー選別

金属除去

食器容器
適合グレード
フレーク完成

エコAPET

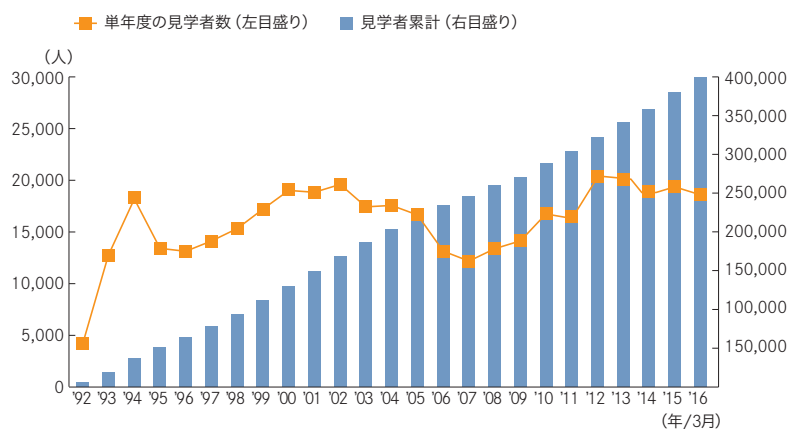


2016年3月に完成した中部エコペット工場(P.18参照)には使用済みPETボトルをリサイクルして製造したフレークを生産工場へと空送するパイプラインが設置され、搬入からリサイクル製品の完成までがシームレスに行われています。



リサイクル工場の見学

20年以上工場見学者を受け入れ、毎年約2万人の方々にご来場いただきました。2015年12月には見学者が40万人を突破し、関係者一同感謝の念に堪えません。1990年にスタートした当時から比べると世の中の環境への関心も大きくなり、来場者の知識も増えたようです。しかし、実際に使用済みの食品容器やPETボトルがリサイクルされる様子をぜひご覧いただきたいと思っています。



● 使用済み容器回収量アップへの協力をお願い

エフピコがリサイクル工場の見学者受け入れに積極的なのは、もっとたくさんの使用済み容器を回収してCO₂削減に寄与したいという思いからです。スーパーマーケットなどに設置の回収ボックスに使用済み容器を入れた後、一体それがどうなるのかを考えたことがある方も少なくないと思います。その後の使用済み容器がどのような工程を辿って再び食品容器として生まれ変わるのかを見ていただき、ひとつの容器がどれほど貴重な資源となるかを実際に見ていただければ、使用済み容器回収へのモチベーションもきっと向上するのではないかと考えています。そして工場見学をした方々のほとんどが「もっとたくさん集めよう」という気持ちになるようです。工場見学については以下をご参照ください。皆さまのお越しをお待ち申し上げます。



工場見学の申し込み受付

見学受付日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:00（各工場共通）
ホームページからもお申込みいただけます。

<リサイクル工場> 選別された容器が再生原料になるまでをご覧ください。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり最大受入人数
関東リサイクル工場（関東選別センター併設）	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大学平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400	120名
中部リサイクル工場（中部PETリサイクル工場・岐阜選別センター併設）	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2036	60名
福山リサイクル工場（福山選別センター併設）	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	福山リサイクル工場 084-957-2301	130名

<選別センター> スーパーなどから回収された容器を選別する様子をご覧ください。

工場名	所在地	問い合わせ先	1団体あたり最大受入人数
山形選別センター	〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地	山形選別センター 0237-85-3645	20名
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1	東海選別センター 055-980-4571	20名
松本選別センター	〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22	東京本社環境対策室 03-5325-7809	15名
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター 1丁目98-2	西宮選別センター 078-907-1288	45名
佐賀選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1	九州選別センター 0952-51-1028	30名

見学プログラムの一例
(計:約90分)

1. リサイクルの流れの説明(10分)工場見学者ルームで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
2. リサイクル工程の見学(30分)容器が運ばれてくるところからペレット(トレーの材料)になるまでをご覧ください。
3. プレゼンテーション(25分)エフピコが行っている食品容器のリサイクル事業を詳しく説明します。
4. 説明ビデオ(15分)プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
5. 質問タイム(10分)見学者からのさまざまな質問にお答えします。

リサイクル活動の成果

	発泡トレー		透明容器		PETボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	枚数
2015年度	6,420トン	16億枚	1,989トン	1億9,890万枚	20,211トン	6億7,370万本
累計 (1990年～ 2016年3月)	12万6,267トン	315億6,200万枚	9,810トン	9億8,100万枚	95,165トン	31億1,721万本

社会的な波及効果

今までに節約した地球資源

石油の量：
約4億6,039万リットル



ドラム缶
約230万本分

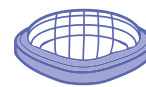
今までに節約した社会的コスト

ゴミ回収費：
約591億円



回収車
約236万台分

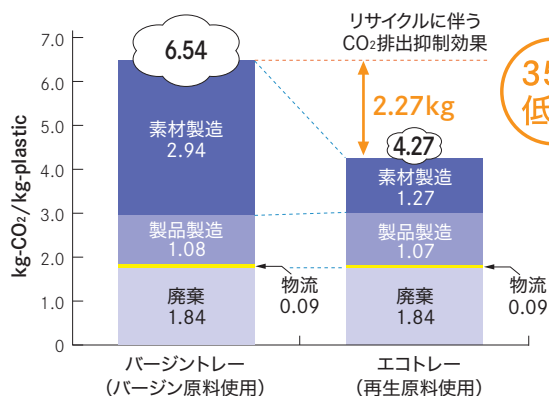
今までに回収した量



東京ドーム
約38杯分

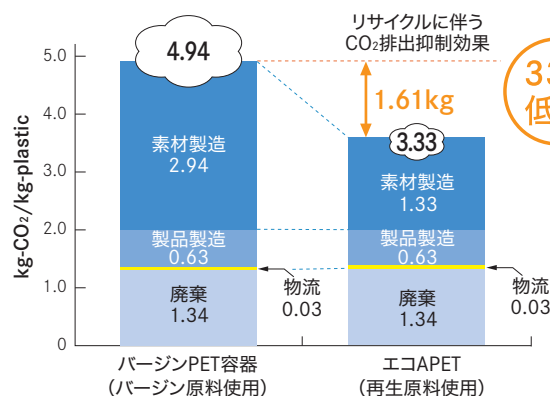
エコライフ基準をベースにしたバージン製品とリサイクル製品のCO₂排出比較

エコトレー エフピコ製品比較



エコトレーを1kg使うと
約2.27kgのCO₂排出抑制効果が得られます。

エコAPET エフピコ製品比較



エコAPETを1kg使うと
約1.61kgのCO₂排出抑制効果が得られます。

2015年度に削減したCO₂の量

約10.1万トン

お客様であるスーパーマーケットなどの方々にCO₂負荷の低いエコ製品を選んでいただくことにより、
社会全体が排出するCO₂が大幅に削減します。

障がい者雇用

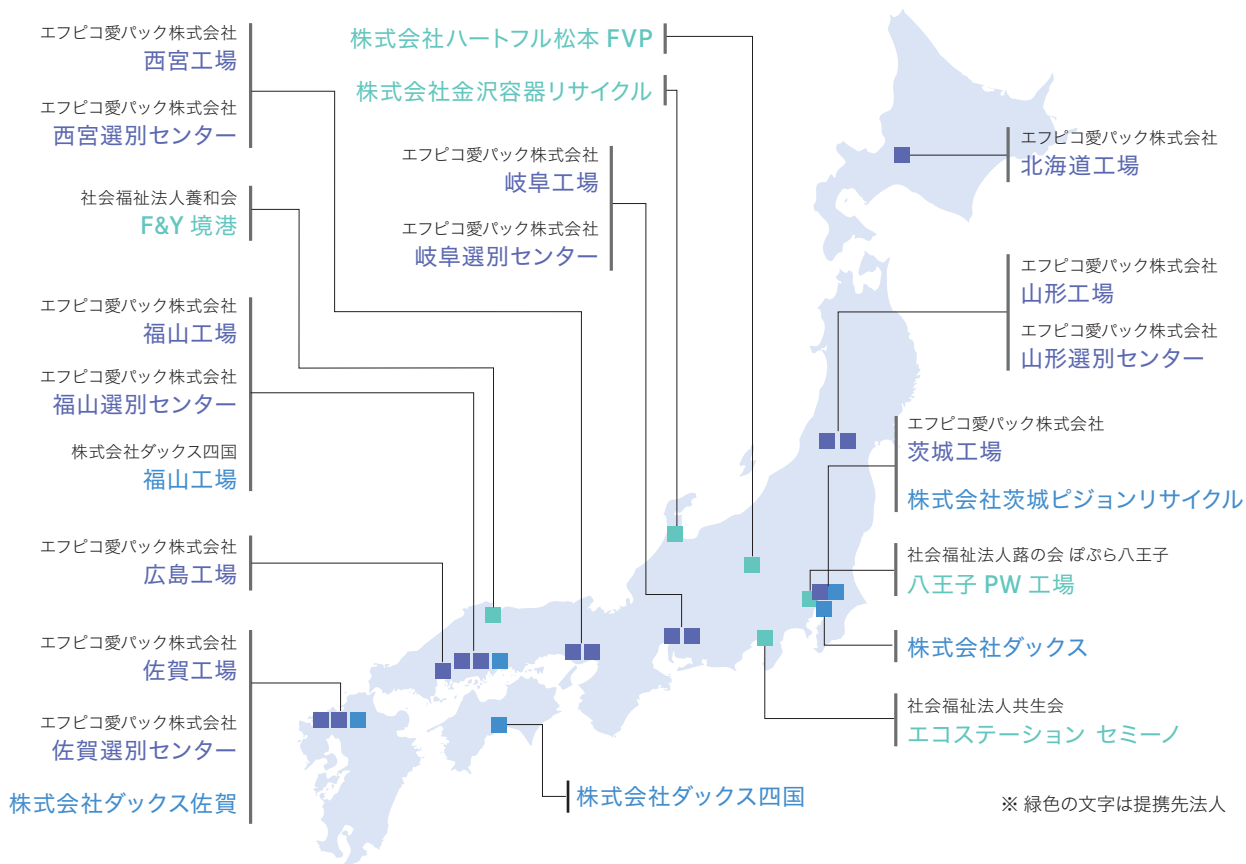
2種類の事業内容

障がいのある従業員が担当する業務内容は大きく分けて2種類。ユーザーのニーズに対応した小ロットの食品容器の製造（成形、組立など）とスーパーマーケットなどで回収した使用済み容器を高い精度で選別する作業です。どちらの事業においても、会社の貴重な戦力となり利益を生み出しています。

● 容器の成形加工、包装、検品



● 回収トレーの選別



特例子会社

容器成形 回収トレー選別

株式会社エフピコの特例子会社として厚生労働大臣から認定を受け、障がい者の安定的な職場の確保、社会への参加を基本に、健常者と助け合って働いていける場を提供。障がい者に配慮した職場環境を整備するとともに、一人ひとりの無限の可能性を引き出し、その能力を大きな戦力として活かしています。

就労継続支援A型事業

容器組立・回収トレー選別 パッケージ事業

長年、社会福祉・地球環境問題にグループをあげて取り組んできた株式会社エフピコが、障がい者の就労の可能性と職域を広げていくことを目的に設立。営利法人としては日本初となる障害者自立支援法（障害者総合支援法）による「就労継続支援A型」の事業所認定を受けています。

エフピコの障がい者雇用年表

- 1986年 1月 (株)ダックス設立
- 1988年 (株)ダックスに千葉県雇用開発協会
障害者雇用優良事業所表彰
- 1995年 4月 (株)ダックス四国設立
- 1995年 4月 (株)ダックスに障害者雇用優良事業所労働大臣表彰
- 2002年 (株)ダックス四国に高知県知事表彰
- 2006年 4月 (株)ダックス佐賀設立
- 10月 広島愛バック(株)設立
- 2006年 (株)ダックス四国に障害者雇用優良事業所表彰
- 2007年 3月 エフピコ愛バック(株)設立
- 2月 広島愛バック工場開設 9月 エフピコ愛バック茨城工場開設
- 5月 エフピコ愛バック福山工場開設 10月 エフピコ愛バック西宮工場開設
- 8月 エフピコ愛バック佐賀工場開設 10月 エフピコ愛バック山形工場開設
- 9月 エフピコ愛バック岐阜工場開設
- 2008年 5月 エフピコハートリサイクル佐賀選別センター開設
- 9月 エフピコハートリサイクル岐阜選別センター開設
- 9月 エフピコハートリサイクル福山選別センター開設
- 10月 エフピコハートリサイクル西宮選別センター開設
- 2009年 1月 愛バック事業を統合
(広島愛バックをエフピコ愛バック広島工場へ)
- 3月 エフピコ愛バック北海道工場開設
- 2009年 (株)エフピコが厚生労働省障害者雇用優良企業認証取得
- 2009年 8月 (株)茨城ピジョンリサイクル設立
- 2010年 10月 エフピコハートリサイクル山形選別センター開設
- 10月 エフピコハートリサイクル北海道選別センター開設
- 2014年 エフピコ愛バック(株)に広島障害者雇用優良事業所表彰
- 2015年 3月 エフピコハートリサイクル北海道選別センターが北海道減容センターに
- 2015年 3月 (株)エフピコが、平成26年度ダイバーシティ経営企業100選に選出
- 2015年 12月 八王子PW開設

エフピコグループだけに留まらず、
障がい者雇用はエフピコのお客様の
事業所にも広がっています。



従業員数

障がいのある従業員	374名
内訳 身体障がい 知的障がい 精神障がい	36名(うち重度12名) 337名(うち重度262名) 1名
雇用率換算数	647名
障がい者雇用率	14.56%

※2016年3月末現在

(株)ダックス30周年・(株)ダックス四国20周年

2016年は株式会社ダックス(写真上)の創立30周年です。30年前、千葉市の障がいのある家族を持つ親の会である『あひるの会』が、子供たちが働く場を自分たちで作ろうと考えたのが、すべての始まりでした。これでお分かりになったと思いますが、社名のダックスは「あひる」からきています。30年という月日の間には本当にいろいろなことがありましたが、社員全員で乗り越えてきました。エフピコをサポートを得て育ててきたダックスは創立から9年後、高知県に新しい会社を立ち上げました。それが株式会社ダックス四国(写真下)です。最初は障がいのある社員5名からの細々としたスタートでしたが現在では障がいのある社員は28名となり、他のエフピコグループの障がい者が働く職場と比べても大所帯です。両方ともに設立当初から働いている障がいのある従業員もいます。次の10年に向けてあひるたちの歩みはしっかりと続きます。





エフピコによる環境への 取り組みは国や自治体の 政策と同調しながら 前進しています

エフピコが製造する「エコトレー」は多くの県でリサイクル製品に認定されています。また政府が環境保全に向けた政策を施行するとほぼ同時にエフピコはその分野で政策に同調したプログラムに参画したり賞をいただくなどしています。企業として常に環境への意識を持ち続けているからこそ、国や自治体と自然に歩調が合うのかもしれない。企業市民のひとりとして、環境保全活動を当たり前のように行う心を持ち続けたいと私たちは思っています。



関西配送センターの屋上に設置した太陽光パネル。

● 容器包装3R推進環境大臣賞

リデュース、リユース、リサイクルの「3R」を推進するために、2012年に環境省が創設した表彰制度「容器包装3R推進環境大臣賞」の第1回選考において、エフピコは製品部門の最優秀賞に選ばれています。



● エコ・ファースト制度

「エコ・ファースト制度」は、業界トップランナー企業が地球温暖化対策や廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境に関する取り組みを環境大臣に対して約束する制度です。エフピコグループは、2011年に『エコ・ファースト企業』に認定されましたが、新たに2020年度を目標年とした環境保全に対する約束を更新しました。



● エコマークアワード

2011年に（財）日本環境協会が設立した表彰制度である「エコマークアワード」の第1回目の最高賞である金賞に、「エフピコ方式による『トレー to トレー』のリサイクル」が選ばれました。それから約5年経ちましたが、エフピコ方式のリサイクルはさらに発展を続けています。



● 「Fun to Share」キャンペーン

「COOL CHOICE」は日本が世界に誇る省エネ・低炭素型の製品、サービス、行動などにおける「賢い選択」を促す国民運動で2015年にスタートしました。2014年にスタートした「Fun to Share」キャンペーンの一環です。エフピコもこの運動に積極的に参加するという意思のもと行動しています。



TOPICS 地球温暖化防止活動環境大臣表彰

2015年12月、エフピコは環境省主催の平成27年度『地球温暖化防止活動環境大臣表彰』を受賞しました。この賞は環境省が地球温暖化対策を推進するための一環として平成10年度から地球環境温暖化防止に功績のある個人並びに団体に対して表彰を行っているものです。27年度の受賞者は36組（個人2、団体34）であり、エフピコは「対策活動実践・普及部門」での受賞となりました。この部門は「地球温暖化防止に資するライフスタイル実践・普及活動、地域における効果的な節電に関する実践・普及活動、植林活動等、地球温暖化を防止する活動の実践・普及等継続的な取組に関する功績」であり、エフピコ方式の循環型リサイクルによるCO₂削減等の功績が称えられたものです。



エフピコ・エコアクション50

エフピコグループ長期CO₂削減目標

改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点（工場、配送センター、オフィス）からのCO₂排出量および特定荷主の責任範囲の物流に伴うCO₂排出量の合計を以下のように削減することを目標としています。目標達成のため、「エフピコ・エコアクション50」と題した行動指針を掲げ、グループ全社的な「エコバリューチェーン」の構築を行っています。

CO₂排出量を、2020年度までに
20%削減（2003年度比）

CO₂排出原単位（販売枚数あたり）を、
半減（2003年度比）

エコバリューチェーンの構築によるプロジェクトの推進

グループ全社を挙げての環境負荷の低減には会社組織や部署の垣根を越え、生産や物流など同じテーマに取り組む別組織のグループがひとつとなってプロジェクトの遂行にあたらなければなりません。このようにして構成される各ワーキンググループが別のテーマを持つ他のグループと有機的に連動し、相乗効果を生み出すシステムとしての「バリューチェーン」（価値を生み出す企業内機能の連鎖）を作り上げることにより、エフピコは環境負荷の低減という目標の達成を目指しています。例えば環境負荷低減製品であるエコトレをより多く生産、販売、リサイクルするために各ワーキンググループが連動して何をすべきかを考えています。CO₂ 20%削減という大きな目標を達成するために、エフピコでは「エコバリューチェーン」の構築によるプロジェクト推進を行っています。

ECOバリューチェーン

製品
ワーキンググループ



環境負荷の小さい製品の開発を行っています

オフィス
ワーキンググループ



オフィスにおけるエコ活動の推進を行っています

生産
ワーキンググループ



生産工場における環境負荷の低減に努めています

物流
ワーキンググループ



全ての物流活動における環境負荷の低減を行っています

販売
ワーキンググループ

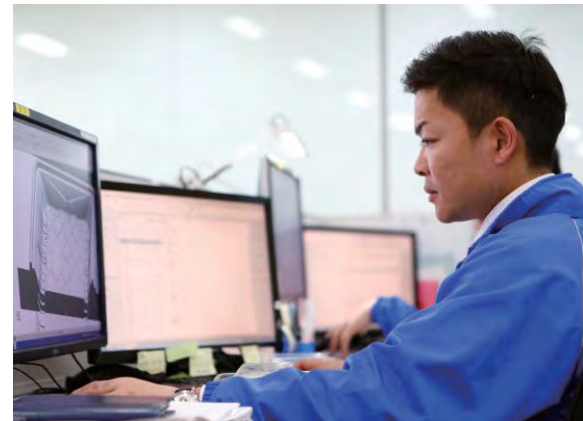


エコ製品の販売拡大とリサイクルの推進を行っています

製品ワーキンググループ

● 製品のライフサイクルアセスメント

製品開発部門ではライフサイクルアセスメント(LCA)の手法を用いて環境負荷の見える化を行うことにより、環境負荷数値の算定を実施しています。ライフサイクル全体で見ると、容器の材料生産工程と生産した容器を廃棄処理する工程からの排出が全体の約8割と突出して大きいことが分かっています。エフピコが製品を循環型リサイクルで再生することに注力しているのはこうした理由からです。使用済み製品を廃棄せずに新たな製品の材料とすれば、二重のCO₂削減効果につながります。リサイクルされた発泡素材は「エコトレー」になり、PET素材は「エコAPET」製品になります。これにより、製品あたり3割以上のCO₂削減を実現しています。製品ワーキンググループではエコトレーとエコAPET製品の開発と改良を継続して実施しています。



● 製品素材の軽量化・薄肉化

製品を通して環境負荷低減を実施する方法のひとつとして、製品の軽量化・薄肉化があります。そのためにエフピコが実践しているのは、使用する材料を少なくすることによる軽量化と薄肉化です。発泡製品の素材の発泡倍率を上げることにより製品を軽量化できます。また薄い素材を使用することも省資源化につながります。こうした軽量化・薄肉化を行っても製品の機能を維持するため、形状のデザインにさまざまな工夫を施したり、新しい素材の開発などを行っています。

● グリーン調達

グリーン調達とは地球環境保全への取り組みを目的に、安全で環境負荷の少ない原材料、部品、製品を積極的に調達することです。エフピコでは製品が排出するCO₂を削減するための調達ガイドラインを作成し、グリーン調達の実践を行っています。環境に配慮した原料メーカーからの優先購入やISO14001認証取得を条件とすることなどがガイドラインに含まれています。

CO₂削減に最も大きな効果を
発揮できる部署として、
その役割の大きさを日々感じています。



生産ワーキンググループ

● 生産工場における品質マネジメント

品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」の認証を笠岡、関東下館、近畿亀岡の3工場で取得しており、PDCA方式のマネジメントにより工場内での責任・権限の明確化、業務の標準化、教育・訓練内容の充実、生産技術の向上に取り組んでいます。品質のマネジメントは業務の効率化に直結し、結果として環境負荷の低減へとつながっています。



● エネルギーの見える化による施設の省資源化

生産工場を動かしているユーティリティ（主に電力）を無駄なく効率的に使用するため、多くのポイントでエネルギー負荷の定点計測を行い、得られたデータを分析することによってエネルギーを効率的に使用する可能性を常に追求しています。10分単位、30分単位、1日単位や月ごとの数値でユーティリティの使用状況を確認すると、この工程でどのような無駄やムラがあるのかが分かってきます。こうした見える化によって明らかになったCO₂を削減するため、随時設備や機器の保守とリニューアルを行っています。

● 「ものづくりプロジェクト」による作業の効率化

生産ワーキンググループでは、生産性向上を目的とした「ものづくりプロジェクト」を継続的に実施しています。年に2回全国の工場スタッフが集まり、業務の効率化に関する成果発表会を行っています。この施策は本来製品の品質向上を目的とし、作業の効率化を高めるためのものですが、結果として無駄の削減や省エネにもつながるため環境負荷低減に大きく貢献しています。

● 工場内リサイクル

エフピコでは生産工場から排出される産業廃棄物の最終処分率1%未満達成を目標とし、ゼロエミッション活動を行っています。生産過程で出る端材、製品や使用済み容器の梱包材なども可能な限りリサイクルしています。製品の製造過程で生じる端材に特化した「ペレット省エネプロジェクト」というワーキンググループもあります。



新人3人の帽子の帯色が変わり、エフピコ製品製造の熟練者となるまで見守っていきます。

物流ワーキンググループ

● SCMと自社物流ネットワーク

エフピコの物流はグループ会社であるエフピコ物流やアイ・ロジックによって行われる自社物流であり、生産の計画に併せてサプライ・チェーン・マネジメントシステム（SCM）により物流計画も立案されます。納品から逆算しての生産と物流の計画であるため、在庫管理、製品の横持ち（倉庫間での製品の融通）、納品に至るまですべての物流計画が最も効率的な内容となっています。従って物流にかかわるCO₂の排出も最小限に留められ、環境負荷低減の管理がなされています。



● ルートプランナーとR・Dチェックシステム

「ルートプランナー」は膨大な数の物流車両を対象に最も効率的な配送ルートと配車計画を策定するシステム。そして「R・Dチェックシステム」は配送の状況をリアルタイムでモニタリングする配車業務の見える化システムです。R・Dチェックシステムによって可視化された配送状況をルートプランナーにフィードバックすることにより、効率化のシナジー効果を生み出しています。

● 環境保全に向けた取り組み

福山配送センターのクロスドック屋上と関西配送センターの屋上に太陽光パネルを設置し、年間約1,308kwhを発電しています。他にもドライバーを対象とした「エコドライブ10カ条」運動の実践、CO₂排出の少ない海上貨物輸送の採用、環境負荷の少ない事業運営の証である「グリーン経営認証」取得などさまざまな施策を実践しています。

● 物流改善発表会

全国の配送センターの現場から代表者が集まり、テレビ会議システムも活用して数百名の参加者による物流改善発表会を定期的開催しています。物流の現場におけるさまざまな改善の取り組みは効率を向上させ、環境負荷低減につながっています。

タイムリーに確実に製品をお届けするという責任に加え、効率性アップによるCO₂排出低減を常に考えています。



販売ワーキンググループ

● 環境対応製品の積極的な販売

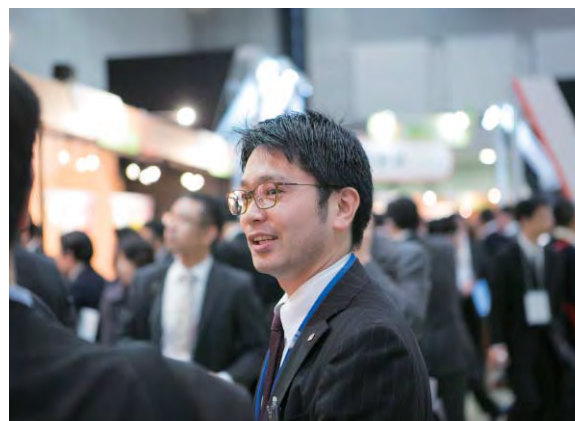
販売ワーキンググループが行うことのできる最も効果的な環境保全を目的とした活動は、お客様であるスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの店舗に対して環境対応製品をお薦めすることです。エコトレーやエコAPETは使用すればするほどCO₂の削減につながります。同じトレーであればエコトレーに切り替えていただくことをお薦めしているのはそうした理由からです。

● 使用済み容器回収地点の強化

現時点における使用済み容器の回収率は約30%です。エフピコとしては当然ながら100%の回収を目指しており、より多くの使用済み容器の回収は非常に重要な課題となっています。まず第一はひとつでも多く回収ボックスを増やすことです。消費者の方々が使用済み容器を店頭を持ってきても、回収ボックスがなければリサイクルにつながりません。次のステップとしてエフピコの営業スタッフが行っているのは、回収ボックスなどを設置している場所の環境整備です。啓発ポスターの掲出、ビデオの放映、ポイント付与機能付き回収マシンの設置などを各店舗に提案し、消費者の方々の注意と興味を喚起して回収率を上げようという作戦です。使用済み容器の回収は店舗の一部を使って行われており、店舗の方々の協力は必要不可欠です。リサイクル活動全体にとって重要となる回収地点の整備に、エフピコの営業スタッフは営業活動の一部として取り組んでいます。

● お客様と消費者を対象とした情報提供

使用済み容器の回収率アップのためのプログラムとして、エフピコはリサイクル工場の見学会を実施していますが、スーパーなどの販売店を通じて見学者の受け入れを行っています。例えば、「〇〇スーパー主催親子エコツアー」などのイベントをスーパー様との協同で開催し、消費者の方々が店頭に持ってきた使用済み容器が実際にどのようにリサイクルされているのかを見ていただきます。実際に目で見るリサイクル工程はインパクトのある体験であり、回収率アップに効果のある企画となっています。



日々の営業活動のなかで、
お客様からの理解と協力を得ながら
環境保全を目指しています。



株式会社エフピコ様取締役の方(右)と

オフィスワーキンググループ

● パソコンのクラウドシステム

大手通信事業者との共同によりグループ会社全体で使用する約2,000台のパソコンをハードディスクを使用しない仮想デスクトップクラウドシステムとしています。これによりパソコンの運用管理負荷を大幅に削減しています。

● 社員向けの環境教育

社会全体の環境関連の情報を提供したり、エフピコが実践している環境関連事業などについて、社員を対象としたセミナーを定期的に行っています。また社内イントラによるビデオセミナーも行っています。

● テレビ会議システム

全国にたくさんの拠点を有するエフピコグループではテレビ会議システムは欠かせないツールのひとつとなっています。これにより出張や自動車での移動によるCO₂の削減につながっています。

● グリーン購入

オフィスで使う事務用品や備品などの購入の際は、環境負荷が小さい商品やサービスを積極的に選んでいます。



● 低公害車の導入

電気自動車、ハイブリッド車、低公害車、軽自動車および小型車を積極的に導入しています。

● ペーパーレスの実践

メールでの配信やウェブでの閲覧などが可能な各種書類や帳票はプリントアウトを行わない配慮をしています。

● エコドライブモニタリング

エコ運転を推進するため、遠隔監視システムによるドライビングモニターを採用しています。

エフピコグループ企業の全従業員が
同じ方向を向いて環境保全活動を行
うための環境づくりをしています。





広く情報を発信し 人々の思いを受けとめ エフピコも企業市民として 成長を続けています

ひとりの企業市民として社会のなかで生きている上で当たり前のことを当たり前のように行う。言葉で表現するのは簡単ですが、常に自分自身を振り返りながら、今なにをすべきかを考えていないといつの間にか理念から離れていってしまいます。エフピコは展開している事業の情報を社会全般に提供していると同時に、外からの声に耳を傾けています。さまざまな方々とコミュニケーションを取りながら、エフピコも成長しています。



福山駅の新幹線ホームに掲出したエフピコの広告。

● ダイバーシティ経営企業

エフピコは2014年度「ダイバーシティ経営企業100選」に選ばれました。ダイバーシティ経営企業100選は経済産業省が主催し、ダイバーシティ人材を活かして、イノベーションの創出・生産性の向上等の成果を上げている企業を表彰する制度です。容器製造やリサイクルの現場において、障がいのある従業員が活躍し、それが企業全体の価値につながっている、というところが評価されました。



● 障害者雇用優良企業

エフピコは2009年に厚生労働省から障害者雇用優良企業として認証されました。障がいのある従業員が働くエフピコグループ企業も都道府県（千葉、高知、山形、広島）などから障がい者雇用優良事業主として表彰されました。また働いている従業員も何度も「優秀勤労障がい者」に選ばれていますが、これは職場での普段からの頑張りが評価されたもので、障がい者が働く職場の環境を長年にわたって創り上げてきた結果でもあります。

● フロアホッケー活動

日本フロアホッケー連盟理事長である細川佳代子氏と社長の佐藤との出会いをきっかけとし、エフピコでは社員のレクリエーション活動の一環としてフロアホッケー活動を行っています。この縁からさまざまな人の輪が広がり、近年では国内におけるフロアホッケーの普及を大会スポンサーリングや運営協力などの形で行っています。



● くるみんマーク認定

エフピコは広島労働局長より『子育てにやさしい企業』として認定されています。エフピコの女性社員のほとんどは結婚後も離職せず、育児休暇取得率も100%です。育児をしながら働く女性社員は、各自の職責に合わせて労働時間を短縮しています。



FPCO's Philosophy

執行役員総務人事副本部長
西村 公子

働き甲斐も創造性も、ダイバーシティのある職場に生まれるもの。



エフピコでは、障がいのある従業員が、リサイクル、製造という基幹業務の中で活躍しています。でも、彼らが職場で活躍することができるようになるための魔法の杖などありません。職場に必要な存在であると自分自身を理解・認識できるよう指導・支援し、職場全体で努力を重ねた結果です。

人が働き甲斐を感じるのは、自分が職場に貢献していると感じることができた時ではないでしょうか。これは、障がいの有無、性別、年齢、国籍を超えた、職業人として共通の思いです。多様な人材の個性を認め、適材適所の配置を行い、切磋琢磨を促進する職場環境こそが、こうした社員の思いに応えることができる職場だと思います。多様な人を集めただけでは、職場はバラバラです。ダイバーシティ（多様性）を活かすためには、多様な個性をあるがままに受容して包み込む、懐の深い職場であることが基本です。エフピコは多くの障がいのある従業員の能力発揮により新しい企業価値を創造したと評価をいただきましたが、これからも多様な個性を認め合い、一人ひとりの生命と心を大切に各人の能力を十分引き出すことにより働き甲斐があり創造性の溢れる活気ある職場づくりを進めていきたいと考えております。

障がいを個性とする活動の取り組み

フロアホッケー活動

エフピコでのフロアホッケー活動は2010年にスタートしました。この活動は社員が行っている他のレクリエーション活動と同様に、エフピコが福利厚生の一環としてサポートしている自発的な部活動です。障がいのある従業員が多く働くエフピコの職場において、障がいの有無など関係なしにもっと職場内でコミュニケーションを取って欲しいと考えていた社長の佐藤はその当時、縁あってユニバーサルスポーツであるフロアホッケーと出会いました。「面白そうだからやってみれば」と言って社長はこのスポーツを提案しましたが、その後は従業員の間で徐々に活動が拡がり、今では全国に9つのクラブがあります。それぞれの地域で定期的に活動を行い、地域や全国で開催される大会などに参加しています。

フロアホッケーをやっている時は年齢も性別も役職もすべて関係ありません。誰もがチームの一員としてプレーします。エフピコにおけるフロアホッケー活動はレクリエーションのひとつではありますが、同時に障がいのあるなしにかかわらず同じエフピコグループの従業員として交流するインクルージョンを目指す取り組みでもあります。フロアホッケー活動を通じてインクルージョン社会の輪が広がることにエフピコは期待しています。



全メンバー600名、
うち障がい者180名。



エフピコ
フロアホッケークラブ山形
(山形県)



エフピコ
フロアホッケークラブ茨城
(茨城県)



エフピコ
フロアホッケークラブ東京
(東京都・千葉県)



エフピコ
フロアホッケークラブ中部
(岐阜県)



エフピコ
フロアホッケークラブ関西
(兵庫県)



エフピコ
フロアホッケークラブ福山
(広島県)



エフピコ
フロアホッケークラブ広島
(広島県)



ダックス四国
(高知県)



エフピコ
フロアホッケークラブ佐賀
(佐賀県)

フロアホッケーとは？

フロアホッケーは、スペシャルオリンピックスの競技のひとつで、カナダでアイスホッケーとリングゲッティー(Ringette)という2つのスポーツから作られた。1チームは最低11人～最大16人までで構成され、ゴールキーパーを含めて6名のプレイヤーがコートで競技を行う。直径20cmの中心に穴の空いた「パック」を「スティック」で操り、相手側のゴールに入れる。通常の木製のフローリングの上で競技を行う。体力、年齢等によってグループ分けをして、子どもからシニアまで、誰にでも楽しむことができる。



● フロアホッケー大会開催への協力と参加

エフピコにフロアホッケーを紹介したのは2005年に障がい者のオリンピックである「スペシャルオリンピックス」世界大会の長野大会を成功させた後、日本フロアホッケー連盟の理事長としてこのスポーツの普及に取り組んでいた細川佳代子氏でした(写真:上段中央)。社内でのフロアホッケー活動がすっかり定着してきた2013年以降、エフピコは全日本競技大会と中国・四国大会をスポンサリングすることでフロアホッケーを支援しています。各大会では運営面でも多くのスタッフを出すなどの協力を行っています。右中段の写真は2015年10月10日、東京の葛飾区で開催された第10回エフピコ杯フロアホッケー全日本競技大会の様子です。

また、全国の各地で開催されているフロアホッケーの大会へはその地域で活動するクラブが参加しています。フロアホッケーが誰もが個性を活かして生きていけるインクルージョン社会の形成につながっていくことをエフピコは願っています。



佐賀クラブのチームが「第5回ユニバーサルフロアホッケー九州大会」に参加



東京と茨城のクラブから4チーム、さらに提携先の長野のチームも「第5回関東甲信越フロアホッケー競技大会」に参加

社外活動への積極的な参加

障がいのあるエフピコグループの従業員はフロアホッケーだけでなく、個性を発現できる他の各種イベントにも積極的に参加をしています。細川佳代子氏が理事長を務める「NPO法人勇気の翼インクルージョン」が主催する各種イベントやプログラムにも積極的に参加し、ファッションショーでモデルを演じたりタップダンスのワークショップに参加するなどの機会を

設けています。下の写真は2015年9月に東京都世田谷区の昭和女子大学で開催されたイベントに参加したエフピコグループの障がいのある4人の従業員です。「かりゆしウェア」をテーマとしながらもモデル各自の個性を表現したファッションショーで、4人全員が周りが納得するような雰囲気での個性的なファッションで登場しました。



株主とのかかわり

企業情報の適切な開示

エフピコは常に適時・適正・迅速・公平に企業情報を開示しています。有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどはホームページのIR コーナーで開示しています。また、機関投資家やアナリストに対しては、株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや生産・物流・リサイクル施設見学会などを実施し、業績や事業内容をより理解していただけるよう努めています。

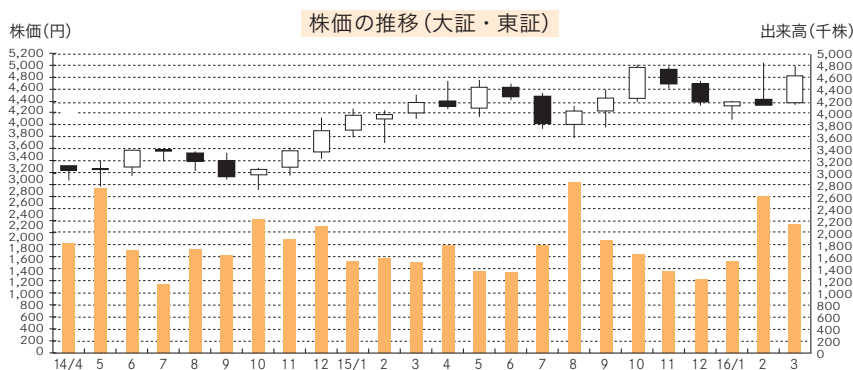
 <http://www.fpco.jp/ir/>

- ・業績ハイライト
- ・株主総会のご報告
- ・IR資料
- ・株式情報
- ・プレスリリース
- ・電子公告
- ・アナリスト説明会
(ビデオ映像等)



企業価値の拡大

「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針に則り、株主本位の経営を実践しています。グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり純利益250円を目標としています。

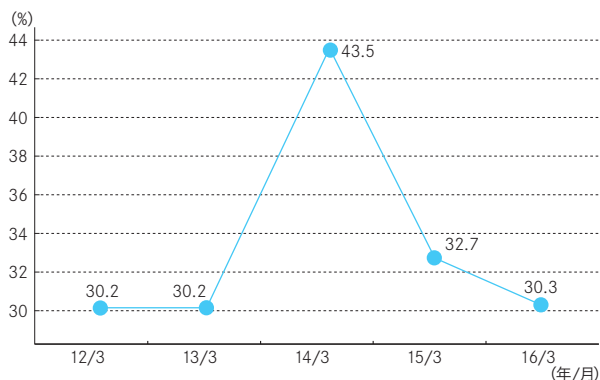


※東京証券取引所市場第1部 ※2014年4月1日付で普通株式1株を2株に株式分割しております。

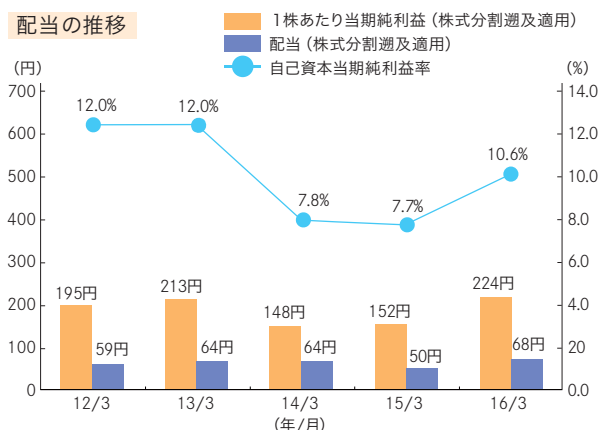
継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆さまへの利益に見合った利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株当たり68円(うち第2四半期期末配当金33円)の配当を実施しました。なお、平成26年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割をおこなっております。

配当性向



配当の推移



消費者とのかかわり

スーパーや各種イベント会場でのコミュニケーション

エフピコでは消費者の方々との相互コミュニケーションを求めて全国各地で開催される展示会や各種イベントまたスーパーの店内イベントなどに出席・参加しています。今年度は30を超えるイベントに参加しました。



エフピコが2015年度に参加した主なイベント

日付	イベント名	開催地
2015年5月4日	福山天満屋 ゴールデンウィークキッズフェスタ「教えて！エフピコ先生のリサイクル教室」	広島県
2015年6月6日	府中環境まつり2015	東京都
2015年6月6日・7日	エコライフ・フェア2015	東京都
2015年6月7日	平成27年度「環境の日」ひろしま大会	広島県
2015年8月1日	福山市「水&環境フェスタ」	広島県
2015年9月5日	「結い2105」第6回受益者総会	京都府
2015年10月3日・4日	福山市ものづくり交流館開館1周年記念「備後ものづくりフェア」(じばさんフェア)	広島県
2015年10月7日～9日	エコテック2015	福岡県
2015年10月18日	第27回長泉町福祉健康まつり	静岡県
2015年10月25日	やまがた環境展2015	山形県
2015年10月25日	ながさきエコライフ・フェスタ2015	長崎県
2015年11月27日・28日	エコ・イノベーションメッセ 2015inひろしま	広島県
2015年12月6日	ヒューマンフェスタ2015ひろしま	広島県
2016年2月20日・21日	第43回一宮市消費生活フェア	愛知県
2016年3月20日	こどもエコクラブ全国フェスティバル2016	東京都
2016年3月22日	たちまち全員集合～参加したくなる社会貢献活動を発見～	広島県

クックパッドとのコラボレーション

月間延べ6,100万人以上が利用し、投稿されたレシピが200万品を超える日本最大の料理レシピサイト『クックパッド』とエフピコの『レンジバック 蒸せるんです』がコラボレーションしています。消費者の方にも直接販売している『蒸せるんです』ならではのPR展開であり、クックパッドの利用者属性(20～40代の女性)と合致していることからこの企画がスタートしました。この特設ページにはクックパッド利用者からの口コミ情報も寄せられているほか、クックパッド内にも『蒸せるんです』を使ったレシピが投稿されています。



TOPICS メディアコミュニケーション:エフピコがテレビ番組に続々登場

2015.11.13 日本テレビ 沸騰ワード10

人気お笑いコンビ「バナナマン」がMCを務めるゴールデンタイムの情報番組でスーパーマーケット業界の沸騰ワードとしてエフピコが取り上げられました。番組内ではMFPドリスカップなど多くの製品の機能や特徴が紹介されています。会長の小松もインタビューで登場。全国ネットの番組であり大きな反響がありました。

2015.11.14 広島テレビ 未来をキレイに! 3Rのスズメ

福山リサイクル工場と総合研究所がロケに使用されました。尾木ママこと尾木直樹さんはトレーの選別作業を自ら体験。エフピコ方式のリサイクルを非常に分かりやすく説明してくださいました。



2015.11.30 関西テレビ ゆうがたLIVEワンダー

番組内の「業界イチオシスcoop!」のコーナーでレンジバック蒸せるんですが紹介されました。タレントのTKO木本さんがクックパッドで人気のメニューに挑戦。男性でも手軽にでき、レンジで作ったとは思えないほど美味しいと絶賛されていました。



地域とのかかわり

● エフピコRiM

福山駅近くの商業施設の命名権を2013年に取得し、「エフピコRiM」という名で地元の皆さんに親しまれています。

● インターンシップの受け入れ

毎年「広島県ものづくりインターンシップ事業」に受け入れ企業として参加し、理工学系の学生の皆さんにさまざまな施設で実地研修をしていただいています。

● 出張講座

広島市内の小学校や自治体主催のイベント等で環境保全全般に関する話やエフピコのリサイクルを紹介する出張講座を行っています。出張講座は毎年十数カ所で開催しています。

● 教員研修の受け入れ

広島県教育委員会が実施する「民間企業等長期派遣研修」の受け入れ企業として教職員の方々と約半年にわたり共に働いています。異なるフィールドで働く両者にとって得るものが多い、貴重な機会となっています。

● 地域社会活動への参加

里山などの自然保護活動やエフピコが拠点を持つ各地域での清掃活動などに参加しています。特に本社のある福山市では、地元のお祭りなどのイベントにさまざまな形で参加をさせていただいています。

TOPICS 会長の小松安弘が福山市の名誉市民に

福山市は2016年に市政100周年を迎えましたが、その節目に弊社会長の小松安弘と故・栗原靖氏(書家)の功績を称え名誉市民の称号を贈りました。名誉市民の推戴は8年ぶりのことであり、過去には作家の井伏鱒二氏や宮沢喜一元首相などもいらっしゃいます。今回の推戴は小松が福山市を本拠地として経済、社会、教育、文化などにおいて多岐にわたる功績を残したことによるものです。



社員とのかかわり

● 福利厚生プログラム

エフピコではアウトソーシング型の福利厚生プログラムを提供しています。福利厚生に特化したプログラムであるからこそその多種多様な福利があり、リゾート施設、各種娯楽施設、スポーツ施設、高級レストランさらには育児や介護のサポートのサービスまで幅広く利用できるシステムとなっています。

● 社員持ち株会

エフピコには社員が持株会を結成し、給与や賞与から積み立てた資金で自社株式を継続して購入する社員持株会の制度があります。毎月の積立金に対して10%の奨励金が支給されており、小額投資で株主になることができる、社員のための長期的な財産形成のサポートシステムです。

● レクリエーション活動支援

エフピコでは社員が行っているさまざまなレクリエーション活動のサポートをしています。スポーツ系の活動が多くフロアホッケー、野球、マリンスポーツ、テニスなどで活動費を補助しています。

● 社員旅行

エフピコでは部署単位だけでなく任意のグループでの社員旅行が認められています。自分たちで行き先を決め、旅先のイベントを企画するという自由度の高い社員旅行となっています。時には数百人が一堂に会する大規模な社員旅行もありますが、その参加率が良いのもエフピコの特徴かもしれません。

入社10年以上の社員が招待されるハワイ研修旅行も毎年実施しています。さまざまなグループ企業から集まった約30名が交流する貴重な機会でもあります。

第三者によるコメント



新井 和宏 様 鎌倉投信株式会社取締役資産運用部長

これまで鎌倉投信では、公募の投資信託「結い 2101」の投資先として、事業性と社会性の両面で結果を残してきたエフピコさんを高く評価しています。特に社会性の面では、上場企業で自社の障がい者雇用率トップを維持し続けているだけでなく、最近では取引先の障がい者雇用推進に力を入れ、取引先との長期的な深耕に注力されている点などを見ると、社会と企業が共に豊かになるCSV(Creating Shared Value)活動が実践されていて、これからの時代に求められている企業像になっていると感じます。

今後は、新たな物流企業としての成長面も期待していますが、国内で培った食品トレーの技術・ノウハウを海外にも広めていただき、世界に誇れる『リサイクルを軸とした地上資源の循環型社会創造企業』として成長されることを楽しみにしています。



伊坪 徳宏 様 東京都市大学環境学部教授

エフピコの循環リサイクルシステムは使用済み容器の回収率を高めるとともに、同等以上のものに再生する世界でも類を見ない画期的なシステムです。再生による環境への放出を抑えるだけでなく、素材生産のエネルギー消費を抑えることでCO₂の排出をライフサイクル全体で3割以上削減することもわかっています。回収されたプラスチックの仕分けには労働を伴いますが、同社ではこれを障がい者雇用につなげています。環境問題の解決を社会課題の取組につなげつつ、ビジネスへと展開する同社の活動はまさに世界の模範となるものと言えるでしょう。

国際連合は、2030年に達成すべき持続可能な目標を定めました。ここには、気候変動や水、海洋、エネルギー、都市問題、雇用問題が挙げられております。エフピコ社におかれては、世界に向けた情報発信と業務展開などを通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献されることを強く期待しております。



鬼沢 良子 様 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット事務局長

店頭回収がまだなかった25年程前に、柏市の環境イベントでトレーの回収を行い、問屋さんを通じエフピコに引き取っていただいたことを今も鮮明に覚えています。その時、家で溜めていた白色トレーを大量に持ってきた方がいて、ごみの活動が駆け出しだった私には衝撃でした。その前からエフピコはトレーのリサイクルを行い、消費者への普及啓発をし、リサイクルとものづくりの循環を実践してきたリーディングカンパニーです。今では、店頭やステーションでの回収が当たり前になり、エフピコは日本のトレーリサイクルの歴史を作りました。

トレー以外にも使用後の容器包装を資源として有効利用することが今では企業の責務です。ライフスタイルの変化と共に、食品の販売、運搬保存、調理の変化に対応が望まれています。今後より先進的取り組みに期待し、御社が消費者と共に循環型社会を築くことを願っています。

財務データ

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,710	15,089
受取手形及び売掛金	32,876	35,628
商品及び製品	17,804	15,686
仕掛品	94	76
原材料及び貯蔵品	3,770	2,849
繰延税金資産	1,340	1,649
未収入金	4,102	2,766
その他	450	439
貸倒引当金	△30	△29
流動資産合計	74,120	74,154
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	97,595	108,219
減価償却累計額	△46,248	△48,267
建物及び構築物(純額)	51,347	59,951
機械装置及び運搬具	35,963	41,926
減価償却累計額	△25,004	△25,990
機械装置及び運搬具(純額)	10,959	15,935
土地	33,256	33,502
リース資産	25,608	23,010
減価償却累計額	△12,513	△12,384
リース資産(純額)	13,095	10,626
建設仮勘定	1,031	2,237
その他	19,109	18,850
減価償却累計額	△15,247	△14,344
その他(純額)	3,862	4,505
有形固定資産合計	113,551	126,759
無形固定資産		
のれん	1,605	1,232
その他	1,077	1,057
無形固定資産合計	2,683	2,290
投資その他の資産		
投資有価証券	4,085	3,522
繰延税金資産	1,014	1,212
その他	1,225	1,169
貸倒引当金	△50	△55
投資その他の資産合計	6,274	5,849
固定資産合計	122,509	134,898
資産合計	196,629	209,053

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	21,163	18,472
短期借入金	10,702	13,803
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
リース債務	3,950	3,531
未払金	6,370	10,182
未払法人税等	1,686	3,220
未払消費税等	773	1,022
賞与引当金	1,565	1,805
役員賞与引当金	44	71
その他	2,958	2,920
流動負債合計	64,214	70,029
固定負債		
長期借入金	33,084	35,106
リース債務	10,059	7,878
繰延税金負債	48	44
役員退職慰労引当金	1,206	1,210
執行役員退職慰労引当金	7	14
退職給付に係る負債	2,716	2,993
その他	159	184
固定負債合計	47,282	47,432
負債合計	111,496	117,462
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	15,843	15,843
利益剰余金	59,600	66,453
自己株式	△4,941	△4,942
株主資本合計	83,653	90,505
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,288	919
退職給付に係る調整累計額	△204	△249
その他の包括利益累計額合計	1,084	669
非支配株主持分	395	416
純資産合計	85,133	91,591
負債純資産合計	196,629	209,053

連結損益計算書及び連結包括利益計算書 (連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
売上高	164,918	170,292
売上原価	118,336	117,420
売上総利益	46,582	52,872
販売費及び一般管理費	37,393	39,624
営業利益	9,189	13,248
営業外収益		
受取利息	5	3
受取配当金	74	82
補助金収入	667	544
受取賃貸料	90	75
スクラップ売却益	209	173
その他	317	304
営業外収益合計	1,365	1,183
営業外費用		
支払利息	297	249
その他	151	155
営業外費用合計	448	404
経常利益	10,106	14,027
特別利益		
固定資産売却益	1	-
負ののれん発生益	39	-
特別利益合計	40	-
特別損失		
固定資産除売却損	135	254
段階取得に係る差損	80	-
ゴルフ会員権評価損	-	19
特別損失合計	215	273
税金等調整前当期純利益	9,931	13,753
法人税、住民税及び事業税	3,526	4,729
法人税等調整額	64	△291
法人税等合計	3,591	4,438
当期純利益	6,340	9,315
非支配株主に帰属する当期純利益	11	20
親会社株主に帰属する当期純利益	6,329	9,294

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
当期純利益	6,340	9,315
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	734	△368
退職給付に係る調整額	△106	△45
その他の包括利益合計	627	△414
包括利益	6,967	8,900
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,956	8,880
非支配株主に係る包括利益	11	20

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	9,931	13,753
減価償却費	11,135	9,526
賞与引当金の増減額(△は減少)	55	240
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△11	26
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△25	3
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△39	4
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7	7
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	260	277
固定資産除売却損益(△は益)	133	244
受取利息及び受取配当金	△79	△85
支払利息	297	249
ゴルフ会員権評価損	-	19
売上債権の増減額(△は増加)	△2,172	△2,752
たな卸資産の増減額(△は増加)	△590	3,058
未収入金の増減額(△は増加)	△1,356	1,117
仕入債務の増減額(△は減少)	1,420	△2,691
その他の資産・負債の増減額	622	363
未払消費税等の増減額(△は減少)	219	431
その他	731	442
小計	20,539	24,236
利息及び配当金の受取額	80	85
利息の支払額	△289	△247
保険金の受取額	164	-
災害損失の支払額	△127	-
法人税等の支払額	△3,454	△3,241
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,912	20,832
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△18,203	△17,657
無形固定資産の取得による支出	△405	△340
投資有価証券の取得による支出	△25	△25
投資有価証券の売却による収入	175	8
長期貸付けによる支出	△39	△39
長期貸付金の回収による収入	25	31
その他	75	99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,397	△17,923
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△3,184	400
長期借入れによる収入	17,500	15,000
長期借入金の返済による支出	△8,778	△10,277
自己株式の取得による支出	△1	△0
リース債務の返済による支出	△4,153	△4,208
配当金の支払額	△2,339	△2,444
財務活動によるキャッシュ・フロー	△957	△1,530
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,442	1,379
現金及び現金同等物の期首残高	16,153	13,710
現金及び現金同等物の期末残高	13,710	15,089

財務データ

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,150	15,843	55,529	△4,939	79,583
会計方針の変更による累積的影響額			80		80
会計方針の変更を反映した当期首残高	13,150	15,843	55,610	△4,939	79,664
当期変動額					
剰余金の配当			△2,338		△2,338
親会社株主に帰属する当期純利益			6,329		6,329
自己株式の取得				△1	△1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	3,990	△1	3,988
当期末残高	13,150	15,843	59,600	△4,941	83,653

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	553	△97	456	21	80,062
会計方針の変更による累積的影響額					80
会計方針の変更を反映した当期首残高	553	△97	456	21	80,142
当期変動額					
剰余金の配当					△2,338
親会社株主に帰属する当期純利益					6,329
自己株式の取得					△1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	734	△106	627	374	1,001
当期変動額合計	734	△106	627	374	4,990
当期末残高	1,288	△204	1,084	395	85,133

当連結会計年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	13,150	15,843	59,600	△4,941	83,653
当期変動額					
剰余金の配当			△2,442		△2,442
親会社株主に帰属する当期純利益			9,294		9,294
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	6,852	△0	6,851
当期末残高	13,150	15,843	66,453	△4,942	90,505

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,288	△204	1,084	395	85,133
当期変動額					
剰余金の配当					△2,442
親会社株主に帰属する当期純利益					9,294
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△368	△45	△414	20	△394
当期変動額合計	△368	△45	△414	20	6,457
当期末残高	919	△249	669	416	91,591

エフピコのあゆみ

沿革・表彰

1962	7月	福山パール紙工(株)設立。広島県福山市古宮町(現在の霞町)に本社を設置し、PSP成型加工を開始
1968	3月	業容発展に伴い、本社を現在地(福山市曙町)に移転
1971	1月	ウッド組立食品容器の製造を開始
1972	4月	福山配送センター(広島県福山市)を開設
1975	9月	総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立
1976	6月	自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催
1979	7月	配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立
1980	1月	物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
1981	6月	食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
1982	3月	高級食品容器製造のため、定位置成型技術を開発
1983	4月	東京支店(東京都練馬区)を開設
	10月	大型ホストコンピュータを導入し、EDI(電子データ交換)による受発注を開始。PSP製電子レンジ用耐熱容器を開発
1984	5月	代表取締役社長(当時)小松安弘がPSP成型加工工業組合理事長に就任
1985	1月	東京配送センター(千葉県船橋市)を開設
	2月	総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催
		大阪支店(大阪府大阪市)を開設 2013年5月、現所在地(大阪市北区中之島)に移転
	6月	総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催
	11月	関東工場(茨城県八千代町)稼働
1987	1月	ソリッド食品容器の原反生産から成型加工までの一貫生産を開始
	4月	100%出資の子会社エフピー商事(現エフピコ商事)を設立
	9月	大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工
	12月	フロンガスを使用したPSPを全廃
1988	3月	関東配送センター(茨城県猿島町)を開設
	12月	ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長(当時)小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説をおこなう
1989	1月	CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める
	7月	中部配送センター(岐阜県輪之内町)を開設
	11月	広島証券取引所に株式上場
1990	12月	東北配送センター(宮城県大衡村)を開設
1991	2月	大阪証券取引所市場第二部に株式上場
	4月	バルディーズ研究会「会員部門最高得点票賞」受賞
1992	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて東北リサイクル工場が「平成4年度リサイクル推進功労者賞」受賞
1993	3月	財団法人・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「グリーン・ジャパン・センター会長賞」受賞
1994	10月	関西配送センター(兵庫県西宮市)を開設
1995	4月	物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管
1996	4月	第22回「エフピコフェア96」を東京で初開催
	5月	大阪支店を大阪府豊中市に移転
	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて中部リサイクル工場が「通商産業大臣賞」受賞
1997	1月	ホームページを開設
	3月	財団法人・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて「通商産業省環境立地局長賞」受賞
	5月	代表取締役社長(当時)小松安弘が「藍綬褒章」を受章
	6月	福山リサイクル工場が「ひろしま環境賞」受賞
	9月	社団法人大垣青年会議所主催「西美濃共創アワード'97」にて「こんな会社を誇りにしま賞」受賞
	10月	日本食糧新聞主催「第6回日食環境資源協力賞」受賞
1997	10月	「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて福山リサイクル工場が「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
	12月	新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(広島県福山市)を竣工
1998	10月	福山配送センターに新倉庫竣工
1999	2月	代表取締役社長(当時)小松安弘が「第19回毎日経済人賞」を受賞
	4月	エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始
	10月	新素材容器「ハイスター」を開発
		「リサイクル推進功労者等表彰事業」にて「内閣総理大臣賞」受賞
2000	1月	特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県南国市)を竣工
	3月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
		関東つくば工場(茨城県下妻市)を稼働開始
	7月	関東下館工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	10月	近畿亀岡工場(京都府亀岡市)を稼働開始
2001	7月	「第4回エコライフびわ湖賞」にて「アイディア部門優秀賞」受賞
	11月	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
		東京本社にキッチンスタジオを開設
2003	1月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定(バックドール(株)は2003年5月更生手続終結、中国パール販売(株)は2005年5月更生手続終結)
	7月	東日本ハブセンター(茨城県八千代町)完工
		山形工場(山形県寒河江市)稼働開始
	11月	「ウエステック大賞2003」にて「事業活動部門賞」受賞
2004	3月	東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設
	5月	東北配送センターを山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転
2005	9月	東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
		「愛・地球賞(財団法人国際博覧会協会・日本経済新聞社主催)」を受賞
2006	6月	サンプル受付センターを稼働開始
		特例子会社(株)ダックス佐賀(佐賀県吉野ヶ里町)設立
	9月	(株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞
	10月	就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛バック(株)(現エフピコ愛バック(株))設立
	12月	「財小松育英会」設立
2007	2月	関東下館第2工場(茨城県筑西市)を稼働開始
	3月	就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立
	4月	「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて「製品部門最優秀賞」受賞
	8月	エフピコ八千代センターを稼働開始
		エフピコ愛バック(株)佐賀工場(佐賀県神埼市)を稼働開始
		「ものづくり大賞」にて「経済局長賞」受賞
	9月	エフピコ愛バック(株)岐阜工場(岐阜県輪之内町)、茨城工場(茨城県坂東市)を稼働開始
	10月	エフピコ愛バック(株)西宮工場(兵庫県西宮市)、山形工場(山形県寒河江市)を稼働開始
	11月	「財小松奨学財団」設立
	12月	本社新社屋(広島県福山市)竣工
2008	2月	退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立
	8月	日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて「中国ニューオフィス推進賞」を受賞
2009	5月	西関東ピッキングセンター(東京都町田市)稼働
	6月	大洋興業(株)より包材部門を事業譲受
		代表取締役会長 小松安弘が「第11回企業家賞」を受賞
	8月	(株)茨城ビジョンリサイクルを設立
	10月	(株)富山陽成社より日本パール容器(株)を事業譲受して、エフピコ日本パール(株)を設立

エフピコのあゆみ

2010	4月	ユカ商事(株)より包装資材等の商品仕入事業を譲受
	6月	(株)アルライト(現エフピコアルライト(株))を連結子会社化 (株)アイ・ロジック福山ピッキングセンター(広島県福山市)開所
	10月	インターパック(株)(現エフピコインターパック(株))を連結子会社化
	12月	ダイヤフーズ(株)(現エフピコダイヤフーズ(株))を連結子会社化
2011	2月	「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞 代表取締役会長 小松安弘が『第9回渋沢栄一賞』受賞
	5月	アイ・ロジック中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)を竣工
	9月	仙台営業所(宮城県仙台市)を移転統合 エフピコ愛バック(株)広島工場が(独)高齢・障害者雇用支援機構より「優秀勤労障害者」部門で表彰受賞
12月	(株)エフピコ及びエフピコ物流(株)がエコシップ・モダリティシフト優良事業者として「国土交通省海事局長賞」を受賞	
2012	11月	PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
2013	3月	「ワットセンスアワード」にて『アクション部門優秀賞』受賞
	4月	持分法非適用関連会社の(株)石田商店(現エフピコイシダ(株))を連結子会社化 商業ビル『エフピコRiM』のネーミングライツを取得
	7月	九州第2配送センター稼働(佐賀県神埼市)
	10月	関西第1配送センター稼働(兵庫県神戸市)
	11月	代表取締役会長小松安弘が『旭日重光章』を受章
2014	6月	使用済みPETボトルから再生樹脂を生産する西日本ペットボトルリサイクル(株)を連結子会社化
	8月	福山クロストックセンターを稼働開始(広島県福山市) 日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第27回日経ニューオフィス賞」にて、大阪支店オフィスが「近畿ニューオフィス奨励賞」を受賞
	10月	(株)みやこひも(現エフピコみやこひも(株))を連結子会社化
	11月	八王子配送センターを稼働開始(東京都八王子市)
12月	エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工(広島県福山市)	
2015	3月	PETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働 代表取締役会長小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される 経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出
	5月	経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定
	8月	日本経済新聞社と(社)ニューオフィス推進協議会が主催する「第28回日経ニューオフィス賞」にて、エフピコ総合研究所が「中国経済産業局長賞」を受賞
	9月	八王子配送センター 拡張工事完成
	11月	経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞(製品・技術開発部門)」優秀賞受賞
	3月	PETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働
2016	3月	代表取締役会長小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される

環境・リサイクル

1990	9月	エフピコ方式のリサイクルスタート
	12月	笠岡リサイクルセンター稼働開始
1991	10月	関東リサイクルセンター稼働開始 東北リサイクルセンター稼働開始
	11月	エコトレーが業界初のエコマーク認定
1992	3月	エコトレー販売開始
	4月	環境対策室設置
	5月	中部リサイクルセンター稼働開始
	7月	鳥取市が当社と協力して自治体で初めてトレー回収を開始
	9月	九州リサイクルセンター稼働開始
10月	学校回収スタート、社内のトレー回収スタート	

1993	2月	福山リサイクルセンター(広島県福山市)稼働開始
1996	2月	北海道リサイクルセンター(北海道石狩市)稼働開始
	8月	エフピコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得
	11月	沼津リサイクルセンター(静岡県沼津市)稼働開始
1998	4月	関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入
	7月	工場見学者累計10万人突破
1999	4月	主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001 認証取得
2000	5月	エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号)
	11月	関東リサイクル第1工場(茨城県八千代町)稼働開始
2001	9月	福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設
2003	2月	関東リサイクル第1工場でISO14001 認証取得
	3月	岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	5月	佐賀県にて「エコトレー」がリサイクル製品に認定
6月	岐阜県にて「エコトレー」がリサイクル製品に認定	
11月	工場見学者 累計20万人突破	
2004	3月	広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録
	12月	「トレー to トレー」が第20類・第40類で商標登録(第4322974号)
2005	5月	「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号)
2006	4月	環境経営5ヵ年計画スタート
2007	10月	屋上緑化対応の工場稼働開始(中部第2工場)
	12月	太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始
2008	8月	茨城選別センター(茨城県八千代町)を稼働開始
	10月	西宮選別センター(兵庫県西宮市)、岐阜選別センター(岐阜県輪之内町)を稼働開始
2009	1月	福山選別センター(広島県福山市)を稼働開始 (株)金沢容器リサイクル(石川県金沢市)を稼働開始
	3月	第1回ふくやま環境賞『事業所部門』受賞
	8月	佐賀選別センター(佐賀県神埼市)稼働開始
2010	3月	茨城県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	4月	東海選別センター(静岡県長泉町)稼働開始
	9月	九州選別センター(佐賀県神埼市)稼働開始
	10月	工場見学者累計30万人突破 山形選別センター(山形県寒河江市)稼働開始 北海道選別センター(北海道石狩市)稼働開始
12月	中部リサイクル・中部PETリサイクル工場(岐阜県輪之内町)稼働開始	
2011	4月	環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
	5月	中部リサイクル工場に導入したPETメカニカルプラントがFDA(米国食品医薬品局)NOLを取得
	10月	「エコトレー」が山形県のリサイクル製品として認定
	12月	再生PET容器「エコAPET」が財団法人環境協会よりエコマーク商品認定を取得
2012	2月	「エコトレー」が北海道のリサイクル製品として認定
	4月	再生PET容器「エコAPET」を上市
	6月	「ボトル to トレー」が第20類・40類で商標登録(第5504851号)
10月	国際通貨基金(IMF)・世銀総会にてエフピコ方式展示	
12月	「エコAPET」が第20類で商標登録(第5543674号)	
2013	10月	山形県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定
2014	2月	岡山県にて「エコAPET」がエコ製品に認定
	3月	茨城県にて「エコAPET」がリサイクル製品に認定
8月	福山クロストックセンターに太陽光パネル設置	
2015	9月	関西第一配送センター 太陽光発電竣工
	12月	地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)受賞 工場見学40万人達成 地球温暖化防止活動環境大臣表彰

編集後記

わが環境対策室の玉田(旧姓藤浪)さんが先日第一子を出産しました。内輪の話で恐縮ですが、おめでたい話題ですのでこの場を借りて報告をさせていただくことにしました。新しい命の誕生はいつでも周囲の人間に温かい気持ちを運んでくれます。子供は社会の宝、とは至言です。他の多くの女子社員同様、彼女も産休を取得中であり、お子さんが大きくなれば時短を活用してまたわが部署で働きたいと言ってくれています。子育ての環境がなにかと話題になっている現在の日本の社会ですが、エフピコも社会の宝を育むために働く女性の環境整備に役立ちたいと考えています。

「エフピコレポート 2016」を最後までご覧いただきまして誠にありがとうございます。皆さまのご意見を参考に、内容の継続的な改善を図っていきたいと思っております。つきましては、当レポートに添えてありますアンケートにご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。



2016年6月
環境対策室
ジェネラルマネージャー
富樫 英治

エフピコ レポート 2016

発行日：2016年6月

編集方針

エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

CSRに関わるレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしました。

対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日

対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

制作部門・問い合わせ先 株式会社エフピコ 環境対策室

〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー(総合受付36階)

TEL 03-5325-7809 FAX 03-5325-7811 E-mail: Env-FP@fpco-net.co.jp ホームページ: <http://www.fpco.jp/>

FPCO Report 2016

To be a company that links
people with people, people with nature,
and companies with society.



本 社	〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目13番15号	TEL (084)953-1145
東京本社	〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F	TEL (03)5320-0717
大阪支店	〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F	TEL (06)6441-2468
営業所	札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡	

■ホームページ <http://www.fpco.jp/> ■eメール Env-FP@fpco-net.co.jp

